



滝電

1999. 4 No. 20

目 次

会長ご挨拶（北田 幹夫）	1	研究室紹介	24
滝電会役員	2	同窓会だより	27
滝電会だより	4	母校のニュース	29
話題	12	教室情報	31
退官された先生方の近況	14	会員の方々のご活躍	34
卒業生の近況	18	卒業者・修了者氏名（就職先）	36
留学生の声	22	分属者・入学者氏名（出身校）	38

平成 11 年 4 月

平成 11 年度 澄電会総会・懇親会ご案内

澄電会会长 北田 幹夫

拝啓 陽春の候、会員の皆様にはご健勝で益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。

さて、平成 11 年度 澄電会総会ならびに懇親会を下記のとおり開催致します。昨年は 200 名近くの卒業生や先生方が出席され大盛況でした。大学の先生方を交えて、先輩、後輩、同期生の方々が一堂に会して旧交を温めつつ情報交換を行う絶好の機会でございます。また、総会・懇親会に合わせて日頃ご無沙汰の同期会を企画するのもよろしいかと存じます。現在、各方面でご活躍中の皆様方の原点は母校・阪大電気系であることを思い起こして頂き、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

日 時： 平成 11 年 6 月 4 日（金） 午後 6 時～9 時

場 所： 大阪梅田・新阪急ホテル（大阪市北区芝田1-1-35 電話 06-6372-5101）

次 第： 1. 総 会 午後 6 時～6 時 30 分 「花の間」

2. スピーチ 午後 6 時 30 分～7 時 「花の間」

「カエルの脚から集積回路：電気の歴史」

大阪大学大学院工学研究科 電子工学専攻教授 濱口 智尋 先生

3. 懇 親 会 午後 7 時～9 時 「紫の間」

会 費： 学部卒業平成 2 年以降の方 7,000 円

” 以前の方 10,000 円

会費は当日申し受けます。懇親会のみのご参加も歓迎致します。

準備の都合上、出欠のご返事を同封の葉書にて来る 5 月 21 日（金）までにお知らせ下さい。

会 員 來 澄 電 潤 學 工 大 順

会長挨拶

員会事務局

(社) 球磨高二 (81 開・司節) 古川 義吉
子連工大附 (81 開・工事) 即成 朝輔○
YAX (社) (81 開・戻事) 岩崎 中田
成電工大附 (02 開・成電) 岩崎 藤母
子連工大附 (02 開・成電) 即成 朝輔
子連工大附 (02 開・成電) 岩崎 幸高

会員の皆様には濬電会の活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。

また、役員（幹事）の皆様、とりわけ大変お忙しい中、濬電会の運営のために時間を割いて頂いている大学の先生方には深く感謝申し上げております。

私自身は昭和 28 年に卒業以来、年会費を納め、総会に時々出席するだけの会員でしたが、昨年度一年間、山中会長のもとで副会長として、また今年度は会長として役員会に出席して、議題を審議したり、各幹事からの報告を聞いたりすることを通じて、役員の方々や事務局（安井晴子さん）が、いかに献身的に濬電会のためにご尽力されているかということを目の当たりにし、頭が下がる思いがしています。

卒業祝賀会、総会、見学会、会誌「濬電」の編集等、濬電会の大事な行事をそれぞれの担当幹事の方が 2 名でこなしています。見学会一つとっても見学先との事前の折衝、時間の割り振り、案内状の発送等大変なご苦労です。

このように歴代の先輩会長、役員の皆様の長年にわたるご努力の結果として、今日の濬電会があるのだということを身に染みて感じています。

山口次郎先生（故人）によりますと、当濬電会は阪大工学部の前身である大阪高等工業学校が中之島に創立された頃（1908 年）電気科の卒業生が社会で活動するときのことを考えて卒業生の会として設立された（会誌「濬電」1993. 4 No.14）、ということですから 90 年の長い歴史の重みがあることになります。

その濬電会が今や会員数約 7000 名に達し、学科も電気科一つだけであったのが時代とともに、通信、電子、情報へと拡充され、多くの卒業生が各界で活

（社）球磨高二 (81 開・司節) 古川 義吉
子連工大附 (81 開・工事) 即成 朝輔○
YAX (社) (81 開・戻事) 岩崎 中田
成電工大附 (02 開・成電) 岩崎 藤母
子連工大附 (02 開・成電) 即成 朝輔
子連工大附 (02 開・成電) 岩崎 幸高

濬電会会长 北田 幹夫
(電気・昭和 28 年新)



要な地位に就いて活躍しています。また、地域的にも東京、名古屋、北陸、九州、四国、中国と 6 支部を擁する立派な同窓会に発展してきました。

阪大の卒業生は他の名門大学に比べて母校に対する思いが少なく、卒業生同志の連帯意識も低いといわれます。昨今の厳しい経済情勢の中で産業界の会員の皆様はサバイバルをかけて日々非常なご苦労をさせておられると思いますが、こういうときこそ濬電会という「同じ釜の飯」を共にした、異なる業界で活躍している会員が相互に連携を強くすることが大切ではないかと思っています。可能な限り機会をとらえて会員相互の面識を増やして頂き、そのネットワークが大きく、強く、目が細くなることを期待致します。このことは現役を退いた後もその関係が保たれ人生を豊かにしてくれることは間違いありません。

また、会員の原点である大阪大学の各研究室では学会で注目を集めている素晴らしい研究が多いので、これらの見学会などを開催するのも母校に関心を持って頂く有効な方法ではないかと思っています。

会誌「濬電」は年 1 回だけの発行ではありますが、是非目を通していただき、さらに進んで近況その他を投稿していただくようお願い致します。

会員の皆様におかれましては、濬電会の一層の発展のために、総会はじめ各種の催しに積極的にご参加頂き、会員相互の懇親、交流の場としてご利用頂きますよう重ねてお願い申し上げますとともに、会員各位の益々のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。

(社) 戻事本日 (81 開・司節) 瑛一義式四
(社) ベロム本 (81 開・干事) 岩崎利子
(社) 球磨高二 (81 開・戻事) 夫連 平次○

濡電会役員

平成 10 年度濡電会本部および支部役員としてご尽力頂いた方々は下記のとおりです。(○印は本年度新たに就任された役員、敬称略) また、濡電会支部としては、東京、東海、北陸、中国、四国、九州支部が活動を行っています。役員氏名の他に、本部および各支部の連絡先を付記しておりますのでご用の節はお気軽にご連絡下さい。

濡電会役員

[本 部]

会長

北田 幹夫 (電気・昭 28 新) 関電興業(株)

副会長

○藤井 克彦 (電気・昭 28 旧) 大阪大学名誉教授

三上 彦三 (電気・昭 23) 中電工業(株)

満保 正喜 (通信・昭 25) 金沢工業大学

河村 寿三 (通信・昭 29) 福岡工業大学

竹本 猛夫 (通信・昭 29) 日立化成工業(株)

山下 一彦 (電気・昭 31) 四国計測工業(株)

○佐治 学 (電気・昭 35) 名古屋工業大学

幹事

池田 博昌 (通信・昭 34) 阪大工通信

○兜 秀昭 (電気・昭 41) 南海電鉄(株)

佐々木孝友 (電気・昭 42) 阪大工電気

○坂尾 隆 (通信・昭 43) 松下電産(株)

○東 信一 (電気・昭 45) 三菱電機(株)

○長澤 隆士 (通信・昭 46) 関西電力(株)

○谷口 研二 (電子・昭 46) 阪大工電子情報

○村上 孝三 (電子・昭 46) 阪大工情報

○近田 彰夫 (電気・昭 47) 住友電工(株)

辰野 恭市 (電気・昭 47) (株) 東芝

四方洋一郎 (通信・昭 47) 日本電気(株)

茄子原伸和 (電子・昭 47) オムロン(株)

○松平 盛夫 (電気・昭 48) 三洋電機(株)

吉澤 憲治 (通信・昭 48) 三菱電機(株)

○栖原 敏明 (電子・昭 48) 阪大工電子

田中 和浩 (電気・昭 49) (株) ダイヘン

伊藤 利道 (電気・昭 50) 阪大工電気

高部 英明 (電気・昭 50) 阪大レーザー

大道 博行 (電気・昭 51) 阪大レーザー

溝内 哲 (電気・昭 51) 大阪メディアポート(株)

武田 譲 (電子・昭 52) 三洋電機(株)

田口 哲也 (電子・昭 53) 住友電工(株)

鈴木 俊久 (電気・昭 55) 富士通(株)

北村 義弘 (通信・昭 56) シャープ(株)

古谷 修一 (通信・昭 56) 日本電信電話(株)

宮部 義幸 (通信・昭 56) 松下電産(株)

○滝 哲也 (通信・昭 57) シャープ(株)

○内海 利也 (電気・昭 58) J R 西日本(株)

山本 幹 (通信・昭 58) 阪大工通信

○加納 隆 (電子・昭 59) 日立西部ネットワーク(株)

○大川 剛直 (通信・昭 61) 阪大工情報

連絡先: ☎ 565-0871

吹田市山田丘 2-1

大阪大学大学院工学研究科電気系内

濡電会事務局 安井晴子

TEL 06-6879-7789 (ダイヤルイン)

FAX 06-6879-7774

E-mail : reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp

[東京支部]

支部長

竹本 猛夫 (通信・昭 29) (株) 日立化成工業

総会幹事団体 (株) 日立製作所、松下通信産業(株)

幹事団体代表

山本 晃司 (電子・昭 39) (株) 日立製作所

三浦 裕 (通信・昭 41) 松下通信工業(株)

事務局・連絡先

〒224-8567 横浜市戸塚区戸塚 216 番地

(株) 日立製作所 情報通信事業部

出羽 博 (電子・昭 46)

TEL 045-881-1221 内線 2100

FAX 045-881-7364

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600

松下通信工業(株)

技術本部ネットワークシステム開発センター

石井 義一 (通信・平 5)

TEL 045-939-1262 FAX 045-939-1256

[東海支部]

支部長

○佐治 学 (電気・昭 35)

名古屋工業大学
代表幹事・連絡先

〒461-0006 名古屋市東区東新町 1 番町

中部電力(株) 本居工務部 大西・大京

○江本 邦夫 (電気・昭 58)

TEL 052-973-2207 FAX 052-973-3169

[北陸支部]

支部長

満保 正喜 (通信・昭 25)

金沢工業大学
代表幹事・連絡先

〒910-0944 福井市文京 3-9-1

福井大学工学部電子工学科 大西・大京

松本 忠 (通信・昭 38修)

TEL 0776-27-8569 FAX 0776-27-8749

[九州支部]

支部長

河村 寿三 (電気・昭 29)

福岡工業大学
代表幹事・連絡先

〒820-8502 飯塚市大字川津 680-4

九州工業大学情報工学部電子情報工学科

金藤 敬一 (電気・昭 46)

TEL 0948-29-7664 FAX 0948-29-7651

[四国支部]

支部長

山下 一彦 (電気・昭 31) 四国計測工業(株)

代表幹事・連絡先

〒796-0033 愛媛県西宇和郡伊方町九町コチワキ

四国電力(株) 伊方発電所設備管理課

森田 寛 (電気・昭 48)

TEL 0894-39-0221 内2240

FAX 0894-39-1325

[中国支部]

支部長

三上 彦三 (電気・昭 23) 中電工業(株)

代表幹事・連絡先

〒730-0041 広島市中区小町4-33

中国電力(株) 情報通信部

中村 佳司 (通信・平元)

TEL 082-241-0211 内 2338

FAX 082-246-6705

【会員登録】会員登録用紙を提出して下さい。

電気会だより

平成10年度 総会・懇親会

平成10年6月5日(金)午後6時より大阪梅田・新阪急ホテルで190名(参加予定者数)の参加者を得て行われた。総会は大森裕幹事(電気・昭47)の進行役のもとで行われた。山中千代衛会長(電気・昭23)の挨拶の後、平成9年度事業報告が薦田憲久総務幹事(電気・昭47)から、また平成9年度決算報告が佐々木孝友会計幹事(電気・昭42)から行われ、それぞれ承認された。続いて、山中会長より新会長に北田幹夫氏(電気・昭28新)を推薦する旨の提案があり拍手をもってこれを承認し、就任の挨拶が行なわれた。次に北田新会長より新副会長に藤井克彦名誉教授(電気・昭28旧)を推薦する旨の提案があり拍手をもって承認の後、就任の挨拶が行なわれた。次に、新幹事12名の指名が行われ、拍手をもって承認の後、各新幹事の自己紹介が行われた。引き続き、佐々木新総務幹事から平成10年度事業計画が、また谷口研二新会計幹事(電子・昭46)から平成10年度予算の説明がおこなわれ、いづれも承認された。

総会に引き続き、恒例のスピーチが行われた。本年は、通信工学専攻の池田博昌教授(通信・昭34)から「マルチメディアネットワークの展望」と題してお話をいただいた。日本におけるマルチメディアネット

ワークの実用化の現状についてお話をいただき、さらに欧米、アジアに於けるネットワーク計画の紹介などがなされ、興味深いお話をあった。

懇親会は薦田前総務幹事の司会進行のもとで行われた。北田会長のご挨拶の後、熊谷信昭元総長(通信・昭28旧)、続いて近畿日本鉄道㈱副社長の池田健氏(電気・昭30)からご祝辞を頂戴した。各支部から頂戴した祝電の披露の後、元会長の尾崎弘名誉教授(通信・昭17)の音頭で乾杯し、賑やかな歓談のひとときを持った。最後に、山中前会長のご発声のもと万歳三唱を行い、盛会のうちに散会となった。

(薦田憲久(電気・昭47)記)

京大・阪大電気系交歓スポーツ大会

第41回(平成10年度)京大・阪大電気系教室交歓スポーツ大会は、大阪大学が幹事校となり、平成10年7月21日に関西電力(株)水無瀬体育施設において開催されました。本年度は大阪大学から教職員・大学院生・学部生を合わせて80名を超える参加があり、京都大学と合わせて150名を上回る参加者により各種競技で熱戦が繰り広げられました。両校のバスが会場に到着後、早々に開会式が行われ、はじめに、阪大側を代表して西尾章治郎が歓迎の挨拶を行い、その後、京大側を代表して中村行宏教授が御挨拶をされました。優勝杯の返還後、各競技場において野球、ソフトボール、硬式テニス、卓球、バレー、バレーボールの競技開始となりました。今年は梅雨明けが遅れ天候に気を揉んでいましたが、幸い大会当日は天候に恵まれ、予定していた全競技を滞りなく実施することができました。戦績は次のように4勝1敗で阪大側の圧勝で総合優勝を飾りました。



ソフトボール 9 挑戦 4 やまと賀瀬連系技術
 硬式テニス 2 挑戦 4 大阪大 3 の会 勝利
 卓球 15 挑戦 15 けむ受の4 大阪大 開拓者連盟
 バレーボール 2 挑戦 0 大阪大 開拓者連盟
 総合成績 大阪大学 (4勝1敗)

おをし、またおの再会を約束して散会しません。中
 ち スポーツ大会終了後は施設内の食堂にて大阪大学
 の塙澤俊之教授の開会の辞、京都大学の藤田茂夫教
 授の乾杯の御発声で懇親会がはじまりました。戦績
 報告の後、阪大の平尾孝教授により各競技監督に優
 勝杯が授与され、その後、和やかに歓談が行われま
 した。両校の競技監督の熱のこもったスピーチに至っ
 て懇親会の盛り上がりは頂点に達し、このスポーツ
 大会の本来の目的である両大学電気系教室の親睦を
 一層深めることができたと存じます。最後に京大を
 代表して牟田彌彌教授が御挨拶をされ、阪大の濱口
 智尋教授による閉会の辞をもって盛会のうちに散会
 となりました。

末筆ながら、本スポーツ大会を行うにあたり、滻電会より10万円のご寄附を頂戴し、また、各研究
 室からご支援を賜りましたことをここに厚く御礼申
 し上げます。

(西尾章治郎 (情報システム) 記)

平成10年度 見学会

恒例の見学会が平成10年11月27日(金)37名
 参加のもと行なわれた。当日は午前10時JR米原
 駅東口に集合し徒歩で(財)鉄道技術総合研究所に
 向かった。周辺は民家がまばらにあるだけの田園地
 帯であり実にのどかである。この研究所には世界で
 も有数の高性能大型低騒音風洞が設置されており新
 幹線を始めとする高速鉄道の空力騒音、空気力学的
 諸課題の研究開発が行なわれている。鉄道以外にも
 自動車に関する空気力学的諸問題、流体力学、特に
 乱流に関する学問的研究なども行なわれており様々
 な分野に貢献しているとのことである。風洞技術セ
 ンターのセンター長の方に最初の概要説明から実験
 装置の案内まで丁寧な対応をして戴いた。特に風洞



装置の前では大先輩の参加者からの質問が相次いだが熱心に説明をして戴いた。同時に先輩諸氏の変わらぬ向学心にも感心させられた。また研究所紹介映画の中で挨拶された前任のセンター長は我が滻電会のメンバーとのことである。予定を少しオーバーした12時すぎに研究所を後にし、バスで20分の所にある醒ヶ井楼別館に向かった。紅葉のきれいな山あいの料理旅館で、近くで養殖されている新鮮な虹鱒料理は絶品であった。昼食、歓談後は連れ立って虹鱒養殖場を見学した。11月末のわりにはそれほど寒くもなく約1時間あまりをそれぞれに楽しんだ。最後は米原駅で来年の見学会での再会を誓い帰途についた。

(大道博行 (電気・昭51) 記)

卒業祝賀・謝恩会

恒例の卒業祝賀・謝恩会が卒業式当日の平成11年3月25日午後6時から千里阪急ホテル千寿の間にてとり行われた。学部および大学院の新卒業生をはじめ、ご来賓、電気系教職員、滻電会役員の方々あわせて約430名の参加者を得て大盛況であった。担当幹事の谷口研二教授 (電子・昭46) の司会で式典の部が進められ、ご来賓の方々からお祝辞を賜った。

滲電会会长の北田幹夫氏 (電気・28新) からは、卒業後は人脈が大切なこと、望みを大きく掲げて企業のトップを目指す構え、などについての貴重なお言葉をいただいた。大阪大学元総長の熊谷信昭名



引き続いてパーティーが行われ、湯電会前会長の山中千代衛名誉教授（電気・昭23）の音頭で乾杯し、担当幹事の柄原敏明助教授（電子・昭48）の司会のもとで進められた。会場では卒業生・教官・秘書嬢が賑やかに歓談し、大いに盛り上がり、宴もたけなわの頃、北田幹夫湯電会会长から楠本賞受賞者、藤井秀明君、今西将之君、伊藤宏充君、庄治範匡君に記念品の授与が行われた。最後に電気系卒業生代表して情報システム専攻前期課程の小川剛史君が謝辞を述べ、湯電会副会長の藤井克彦名誉教授（電気・昭28旧）の万歳三唱で閉会となった。

本年度も、例年にもまして盛大に卒業祝賀・謝恩会を挙行することができました。準備のために種々ご協力いただきました湯電会役員の皆様、ご多用中にもかかわらず快くご臨席を賜ったご来賓の方々、

電気系教職員の方々に厚くお礼申し上げます。また、日ごろから湯電会の世話ををして頂き、この会のためにも準備段階から当日の受け付け業務までお世話下さった事務局の安井晴子様、世話役としてお手伝いいただいた学生諸君、電気系秘書の方々に厚くお礼申し上げます。

また、記念品、福引の景品を快くご提供下さいました下記の各社に、心からお礼申し上げます。

オムロン（株）、関西電力（株）、三洋電機（株）、シャープ（株）、住友電気工業（株）、（株）ダイヘン、（株）東芝、南海電鉄（株）、西日本旅客鉄道（株）、日本電気（株）、日本電信電話（株）、日立製作所（株）、富士通（株）、松下電器産業（株）、三菱電機（株）

（谷口研二（電子・昭46）記）

平成10年度東海支部総会報告

平成10年6月6日、名古屋栄の中日パレスに於いて、湯電会東海支部の総会を開催しました。当日は、昭和22年卒から平成6年卒までの総勢15名の出席でした。総会は、倉岡支部長の挨拶で始まりました。今回、昭和59年から14年間の長きに渡って東海支部の支部長を務められ支部の隆盛に貢献された倉岡支部長が勇退され、名古屋工業大学の佐治新支部長（電気・昭35）に引き継がれることになりました。倉岡支部長より佐治新支部長のご紹介とこれまでの活動の思い出話があり、出席者一同から、倉岡支部長の今日までの湯電会へのご尽力を感謝し、盛大な手が送られました。つづいて佐治新支部長にご挨拶をいただき懇親会に入りました。懇親会では、大先



輩の方々から、スキー・山登り・ゴルフなどのアウトドアスポーツでのご活躍ぶりをご披露され若手会員が衝撃を受けるなど、和やかな雰囲気のなかで、久しぶりに顔を合わせた会員相互が近況報告や昔の思い出話に花を咲かせました。最後に全員で記念撮影をし、またの再会を約束して散会しました。

なお今回の総会で、幹事会社も三菱電機(株)から中部電力(株)へ引き継がれることとなりました。東海支部では、会を益々発展させ、会員相互の親睦をさらに深めていきたいと考えております。つきましては、今回の総会に参加されなかった会員の皆様も、次回総会には是非ご出席いただきますようお願いいたします。また、東海地区在住の濬電会会員の方で、今回開催通知の届かなかった方がございましたら、下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

(江本邦夫 (電気・昭58) 記)

<幹事連絡先>

中部電力(株)本店工務部技術開発グループ

江本 邦夫

〒461-8680 名古屋市東区東新町1番地

T E L : 052-973-2207 (ダイヤルイン)

F A X : 052-973-0492

E-mail:Emoto.Kunio@chuden.co.jp

平成10年度濬電会北陸支部総会報告

平成10年度濬電会北陸支部第9回総会は7月11日(土)午後に、“蜃気楼の見える街”富山県魚津市の松下電子工業魚津工場にて、総勢22名の参加を得て開催された。北陸支部の会員数は平成10年6月現在で79名である。御来賓として濬電会元会長の桜井良文大阪工業大学学長、本部より佐々木孝友総務幹事と事務局の安井晴子様の計3名の御出席を頂いた。総会では、恒例のように平成9年度の行事・会計報告、10年度の行事・予算の承認に引き続いて、桜井先生からご挨拶、佐々木先生から本部の現状に関する報告をいただいた。大阪大学工学部の近況では、応用自然系、応用理工系、電子情報エ



ネルギー系、地球総合系の4つの系に学部改組が完了したこと、科学技術庁などの研究プロジェクトに対して研究場所を提供する先導オープンセンターが完成したこと、電気系の近況、濬電会本部総会の報告などがあった。このような報告をお聞きして、各大学とも21世紀の大学像を目指して改革、改組が強く求められていることを意識させられた。総会後、松下電器産業(株)液晶事業部魚津製造部吉田昇部長様から液晶フラットパネルディスプレーについて、松下電子工業(株)半導体事業本部魚津工場長廣瀬之和様からは半導体集積回路について説明を受けた後、工場見学に移った。当工場には、松下電器産業(株)液晶事業部(石川県川北町)の最先端TFT液晶ラインが稼動中であり、第三世代の最新鋭液晶工場見学と併せて半導体工場も見学した。半導体工場では16ビットマイコン製造ライン、液晶工場では、アレイ工程、セル工程、実装工程、モジュール工程などを2班に分かれて見学させていただいた。マルチメディア時代に多様な製品展開が期待できるTFT液晶ラインであり、15型4面取り自動化ラインがCRT代替モニター用に稼動中で、歩留まり向上に努力が払われていた。見学会後、懇親会は魚津駅近くの料亭「喜楽」に場所を移して賑やかな一時を持った。桜井先生、佐々木先生のご挨拶を始め、参加者からは近況報告を含めた自己紹介を行った。地元長老の立山科学工業(株)松岡俊治副社長の万歳で懇親会を終了した。懇親会の後、魚津駅隣接ホテルのレストランで帰りの電車時間までの間に簡単な2次会を持った。大いに盛り上がり、来年度は支

部創立10周年もあり、黒四ダム見学を中心に盛大な総会を開くことを申し合わせて散会した。

最後になったが、今回は総会、見学会、懇親会の開催に際していざれも松下電器産業（株）、松下電子工業（株）に、特に土曜日にも拘わらず、多大のお世話をいたいたことに対して、深く感謝いたします。

（太田勲夫（電気・昭37）、

龍山智栄（電子・D昭47）記）

平成10年度濬電会九州支部総会報告

平成10年度濬電会九州支部総会は第7回目を迎え、平成10年11月14日（土）午後1時30分より長崎市民会館にて開かれました。

今回は始めて長崎市での開催でしたが、飛行機、列車と乗り継いで尾崎弘元会長、また、地の利にて難波進先生（通昭25）がご参加下さいました。本部からは白川功、谷口研二両先生並びに事務局の安井晴子様、また、支部会員（敬称略）では河村寿三（電昭29）、山本滋（電昭29）、加藤治郎（電修昭36）、上田康弘（通昭37）、坂口眞一（子昭38）、大和一晴（通昭43ハ）、金藤敬一（電昭46）、笹尾勤（子昭47）、岩崎俊郎（電昭48）、武石泰亮（通昭54ハ）、服部励治（電昭61）、浜辺隆二（通昭62ハ）、松村謙次（子昭45本部会員）、河合壮（元教官）、基礎工電気から日隅康行様にもご参加頂き、設立総会以来最も盛会となりました。

総会は河村支部長の挨拶から始まり、谷口先生による母校の近況報告、支部の事業・会計報告と式



次第は順調に進みました。来年度の支部総会開催について、北九州市で10月第4土曜日を予定候補とする旨発議があり了承されました。最後に参加者全員の記念写真を撮り、総会は無事終了しました。引き続き、現地世話人をお引き受けしました岩崎が、アメリカの職場でのプロ意識と日本の若い人々の職場感覚のギャップについて自頃抱いている考え方をお話をさせていただきました。

公式プログラムのあとは、三菱重工長崎造船所見学と言う名目で遊覧船に乗り、造船所を左右に見つめ、ネッサンス伊王島に渡りました。宴会の時間まで近くの礼拝堂まで散策し、古くリスト伝承とキリスト弾圧の悲劇をかいじ見ました。懇親会はスペイン料理のバイキングとワイン飲み放題のもと、和やかに談笑し同窓の絆を深めました。

尾崎先生からは、かの有名な「電子回路」の教科書の改訂に尚も取り組んでおられる事、また、大阪フィルをバックにベートーヴェンの「第九」をお歌いになっている事をお伺いし、昔と変わらぬ先生のご活躍振りには感銘いたしました。また、白川先生からはベンチャービジネスへの果敢なトライについてお話を頂き、頗る詳しく聞き入りました。次回からは基礎工の電気関係をご卒業されたご同輩もご参加頂きますよう声を掛け合いました。

再び、遊覧船で長崎埠頭に帰り、そこで一旦解散致しました。翌日曜日は恒例となりましたゴルフを長崎空港カントリークラブで、また、ゴルフをなされない方には長崎市内観光を楽しんで頂きました。

（岩崎俊郎（電気・昭48）記）

平成10年度中国支部総会報告

濬電会中国支部は、11月21日に第5回総会を山口県小郡町、見学会を山口市において開催しました。本部より尾崎弘元会長、佐々木孝友総務幹事、事務局安井晴子様をご来賓としてお迎えし、総勢21名の参加となりました。

午前9時半広島駅から貸切バスで出発、午後12時過ぎ新幹線小郡駅にて大阪・山口方面の方と合流



し、見学先のある山口市に向かいました。まずは、“西の京”とも呼ばれる山口市の重要な史跡である。“常栄寺雪舟庭”と“瑠璃光寺”を散策しました。その後、見学先である KDD 山口衛星通信所へ向かい、宮野勝美副所長のご協力により、国際通信に関して解説いただきました後、衛星通信所の施設を見学しました。

KDD 山口衛星通信所は、昭和 44 年に開設された国内最大、世界最大級の衛星通信所です。ここには、インテルサット・インド洋衛星にアクセスしている国際通信用のパラボラアンテナ 3 基（直径 34m : 2 基、直径 32m : 1 基）のほか、インマルサット衛星にアクセスする海事衛星通信・航空衛星通信用やテレビジョン信号用などのパラボラアンテナが設置されています。周囲をなだらかな山に囲まれた約 5 万坪の敷地の中に、大小様々な合計 15 基のパラボラアンテナが立ち並び、高度技術と自然がマッチした不思議な空間が広がって見えました。

また、今回特別に直径 34m の国際通信用アンテナ設備を見学させていただきました。間近でみると、巨大なパラボラアンテナには、その規模に驚くばかりで、今日の地球規模での情報化社会を創り出したエネルギーを感じられました。

見学会終了後、新幹線小郡駅前的小郡グランドホテルまでバスで移動し、午後 5 時より平成 10 年度総会を開催しました。白髭幹事の司会により最初に三上支部長から開会の挨拶があり、続いて尾崎元会長からご祝辞を、佐々木総務幹事から母校の近況を

ご紹介頂きました。引き続き議事に入り、平成 10 年度の事業計画、会計計画が諮られ、全会一致で承認されました。

続いて懇親会に移り、三上支部長の乾杯の音頭により懇談に入りました。今回は樹下行三先生にも出席いただき、出席者の間では近況や旧懐談に花が咲き、瞬く間に時間も経過し、盛会のうちに来年の再会を期しての散会となりました。

（相木泰治（電気・平元）記）

平成 10 年度四国支部総会報告

湯電会四国支部は、去る平成 10 年 11 月 28 日（土）、ご来賓として湯電会総務幹事佐々木孝友先生ならびに事務局安井様をお迎えし、総勢 15 名の参加を得て高松センチュリーホテルにおいて、第 7 回支部総会を開催しました。

総会は山下支部長の挨拶で始まり、続いて佐々木先生より母校の近況ならびに湯電会本部の活動状況について紹介がありました。大学院重点化の方針に基づき工学部の改革が行われている状況がよくわかるとともに、湯電会本部の行っている会員名簿の編纂・発行事業や見学会の開催など、本部役員並びに事務局の方々のご苦労がしのばれました。

続いて議案の審議に入りました。支部事務局より 9 年度活動実績・決算ならびに 10 年度活動計画・予算案について報告するとともに、ご本人より事前に申し出のあった支部幹事の変更について審議し、全会一致で承認されました。これにより、11 年度からの四国支部役員は下記のとおりとなっております。

支 部 長：山下一彦

総括幹事：坂本明雄

幹 事：矢野米雄

幹 事：山田宏之

幹 事：森田寛

支部総会終了後、同所において、出席者の内の最年長者である対尾様（電気・昭 26）の乾杯の音頭により懇親会に移りました。顔を合わせること



が少ない者同士であり、また、今回初めて出席された会員の方もおられ、それぞれの近況を報告しあいながら時間の経つのも忘れ、大いに旧交を温めることができました。最後に今回で支部幹事を変わられた愛媛大学木谷先生の万歳三唱で、名残尽きぬまま再会を約して散会しました。

なお、今回は、これまで度々ご出席をいただいていた尾崎先生が、所用のためご出席できず、誠に残念でした。四国は平成11年度から3架橋時代を迎える本州からの交通の便が非常に良くなります。本部をはじめ各支部会員の皆様方、ぜひ四国へ遊びに来て下さい。

(森田 寛(電気・昭48)記)

なお、平成10年度東京支部総会報告については、総会開催が平成11年4月23日に予定されているため、次号に掲載予定です。

平成9・10年度濬電会ゴルフ例会

平成9・10年度の濬電会ゴルフ例会は春、秋の年2回次のとおり武庫ノ台G.C.で開催された。

第84回 H.9.5.31(土) 4組16名

第85回 H.9.11.22(土) 4組16名

第86回 H.10.5.30(土) 2組7名

第87回 H.10.11.21(土) 4組14名

この例会はH3年度から武庫ノ台G.C.に舞台を移し通算87回を数える伝統的なゴルフコンペで、一般の部とシニア(満年令65歳以上)の部で優勝

	区分	お名前(卒年)	グロス	H.C	ネット
84回 (晴)	一般 シニア	白川 功(子38) 長田恭一(電28)	79(BG) 96	6 19	73 77
85回 (雨)	一般 シニア	白藤純嗣(電34) 戸石泰司(電31)	88 90	15 12	73 78
86回 (晴)	一般 シニア	西野種夫(電37) 山下義美(電22)	87(BG) 115	10 21	77 94
87回 (晴)	一般 シニア	西野種夫(電37) 戸石泰司(電31)	81(BG) 87	8 9	73 78

を競っている。各回の優勝者は次のとおりである。

第84回は白川先生が若さと馬力に物を言わせてベスグロもかっさらう大活躍をみせれば、第85回は白藤先生が繊細なテクニックを随所に披露し優勝された。第86回、第87回は西野先生が連続優勝とともに連続ベスグロも獲得され西野時代到来を思わせる活躍ぶりであった。優勝の挨拶のなかで「鬼の居ぬ間の優勝だ。次回は鬼が居るなかで3連覇を狙う。」と、鬼(白川先生?)との対決を楽しみにされていました。シニアの部では戸石さんが第85回、第87回と秋の例会を2連覇され、特に第87回ではグロス87と素晴らしいスコアであった。最年長の参加者は昭和16年電気卒の池田さん(宝塚市)と山崎さん(高松市)です。お2人誘い合って、ほとんど毎回参加されフェアウェイの上で旧交を暖めておられます。第87回のプレー後の懇親会の席上で、お2人から「グランドシニアの部を新設して欲しい。」とのお話が出ましたが、ルールを1部改正(後述)して対応することとしました。



平成11年度は6月19日(土)、11月20日(土)を予定しています。今から予定表に入れておいて下さい。場所は同じ武庫ノ台ゴルフコースで、夫々7組(28名)用意しています。今年度のシニアは1958(昭和33)年以前に学部を卒業された方(みなし年令満65歳以上)となっています。また、1943(昭和18)年以前に学部を卒業された方(みなし年令80歳以上)は「第1打をシルバーティから打つことができる」という新ルールを適用します。

お申込みは、はがきにお名前、卒業の学科、卒業

年度、連絡先(住所、郵便番号、電話番号)を書いて湯電会事務局にご連絡下さい。

冒頭の各例会の参加人数を見ていただきますと、7名~16名と28名までに十分余裕があります。組合せ等にご希望がございましたら、はがきにその旨追記いただければ極力配慮させていただきますので、同期等お友達お誘い合わせの上、奮ってお申し込み下さい。ちなみに参加費は¥27,000円、先着28名まで受け付け致します。

(溝内 哲(電気・昭51)記)

湯電会会費納入のお願い

陽春の候、会員各位には益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。本会の活動に変わらないご支援を頂き有り難く存じております。

湯電会の財政状況は、諸般の事情により非常に厳しい状況にあります。本会の活動は全て会員各位からの会費に依存しております。本会の活動をより活発にするために、何卒、平成11年度会費(4,000円)の早期納入(できれば6月末日までに)にご協力賜りますようお願いする次第であります。別表のように、卒業年次度の新しい会員各位の納入率が低くなっています。卒業して間もない方々も、是非ご協力のほどお願い申し上げます。

また、会費納入の便宜を計るため会費の自動振込制度も採用しておりますので、是非ご利用下さい。また、預金口座の変更ご希望の場合は、湯電会事務局まで御一報下されば、折り返し口座変更手続きに必要な預金口座振替依頼書をご送付致します。

なお、卒業年が昭和26年以前の方の会費は免除になっておりますので、納入の必要はございません。また未納の過年度会費はご請求申し上げないことになっております。

卒業年次別会費納入状況

湯電会会計幹事

卒業年次	会員数	会費納入者数	会費納入率
1949~1954	371	217	58.5%
1955~1959	375	224	59.7%
1959~1964	529	320	60.5%
1965~1969	554	278	50.2%
1969~1974	586	235	40.1%
1975~1979	589	237	40.2%
1979~1984	606	218	36.0%
1985~1989	639	233	36.5%
1989~1994	782	237	30.3%
1995以降	713	81	11.4%
合計	5,744	2,280	39.7%

話題

産学連携型 IP 開発ベンチャーの起業

大学院工学研究科情報
システム工学専攻教授
大阪大学大型計算機センター長

白川 功
(電子・昭38、M40、D43)



e-mail: sirakawa@ise.eng.osaka-u.ac.jp
www: http://www-ise2.eng.osaka-u.ac.jp/shirakawa/

わが国の半導体「産」は、大きな曲角にある。設計から製造まで一貫生産する従来の垂直構造は、80年代までのメモリ高収益環境では大いに機能した。しかしながら、欧米と台湾で普及した、設計／製造の得意事業だけを專業するという水平構造は、90年代の国際競争時代に合致し、個々の分野で超優良企業を育て、シリコン・ファンドリやIPベンダー等の新規事業の創出など、半導体業界に大変革をもたらした。これに鑑み、「産」が21世紀に向けて飛躍するためには、垂直構造から脱却し、[IP屋=特定コアの開発] + [システム屋=情報、通信、家電機器設計] + [半導体屋=半導体量産ファンドリ] の分業形の水平構造へといかに早急に構造改革を図るかが緊急課題である。

加えて、LSIの超微細化により、設計複雑度がシステム設計の生産性をはるかに超えるという「設計生産性危機」に直面し、「産」は苦手の合成アルゴリズム／アーキテクチャやIPの開発をアウトソーシングせざるをえないという設計危機の状況にある。

以上の状況を踏まえ、この研究開発分野の事業化をめざす産学連携ベンチャーを興そうと、「産」を説き回った。幸運にも、当時の関経連会長、現在住友電気工業(株)会長の川上哲郎氏から強い賛同を得て、さらには、文部省が97年4月施行の兼業規制緩和の順風を受けて、阪大、京大の教官と院生を実働部隊とし、住友電工と日本ベンチャーキャピタルを主な出資者とする「株式会社シンセシス」の設立

に漕ぎつけた(98年2月設立、同4月営業開始)。以後、出資者にはシャープ、ローム、日本シノプシス、メンター・グラフィックス・ジャパン、イノtekも加わった(98年末)。社長は吉田健一氏(住友電工取締役、通信39卒)、所在地は箕面市船場である。

新会社は、大学がもつ研究開発の知力／腕力と企業がもつ経営能力を結合した新しい形の産学連携ベンチャーであり、IPの研究開発を主な事業とし、あわせて院生を米国のRA／TA並みの条件で経済支援し、かつ実学／ビジネス感覚をもつ人材を育している。

具体的には、研究顧問の5名の教授(阪大；白川功、村上孝三、谷口研二、今井正治：京大；中村行宏)の指揮のもとに、5名の主幹研究員(阪大；尾上孝雄講師、武内良典講師、正城敏博助手、藤田玄助手：京大；泉知論助手)が実質的な研究開発の推進役となり、5研究室の院生15名(98年末現在)を正規／契約社員として投入している。目下、国2機関と民間3社からの7件、自前の3件、合計10件のIPの開発業務(セキュリティ用暗号プロセッサ、ディジタルカメラ用画像処理プロセッサ、H.263/G.723.1向きコーデック等)に携わっている。設計者全員が大学人であるため、低消費電力化や高性能化の先端的仕様を満たす合成アルゴリズムの研究開発に挑戦できるという大きな特徴をもつ。初年度の売上高は1億円を見込み、設立5年後の株式公開・社員へのストックオプションをも目論んでいる。

「産」はかつては世界を席巻したが、目下待ったなしの緊急事態にある。垂直構造は80年代にはDRAMで大成功したが、90年代の国際競争時代には無力となったばかりか、お家芸の製造技術においてさえ、例えば、DRAMの占有面積では米国マイクロン社に、TATでは台湾勢に、大きく遅れをとっている。

パソコンはもはや半導体業界の最大牽引役であります、その巨大市場をさらに凌駕するのは、「産」が得意とする情報家電であり、それに向けての多種多様の設計手法に、ありとあらゆる知的資源を総動

員することこそが、めざすべき緊急ターゲットである。

以上の状況から、産学連携ベンチャーが果たす役

割が極めて大きいといえる。次世代を担う知力と腕力が逆転の原動力として最も期待できるからである。

放射光とともに10年



NTT 通信エネルギー研究所
細川 照夫
(電子・昭48、M50、D53)

NTTにシンクロトロン放射光施設(SR施設)ができて10年が経過しました。平成元年2月3日に超電導小型放射光発生装置(Super-ALIS)が世界に先駆けてSRの発生に成功しました。別に狙っていたわけではないのですが、この日付(H1.2.3)が非常に覚えやすいので助かっています。通常のSR装置は線形加速器・ブースタ加速器・蓄積リングの3点で構成されます。小型化を図るために、このブースタ部の省略、超電導磁石の採用と当時としては画期的な(無謀な?)装置を計画しました。(もちろん、「滑りどめ」も用意しておきました。)産業用のSR装置開発に各社が鎬を削っていたのですが、馬評ではNTTが一番最後になるということになっていたそうで(これは後で聞いた話です)、このような状況でしたから、最初にSRを見た時は本当に感激しました。その後、性能向上を順調にすすめ、世界最大の蓄積電流1.2Aを達成できました。

SRを産業(LSIの製造)に利用する研究は1980年代前半から世界中で行われてきたのですが、これを目的とした最初の専用施設ということで、多くの見学者をお迎えしました。当初の質問で多かったのは、「SRリソグラフィはDRAM換算で64Mbitから使われるのですか?それとも256Mbitからですか?」というものでした。当時、将来のリソグラフィ手段を何にするかが大問題になっており、いくつかの手段が提案されていましたが、SRはその最右翼にいたわけで、SRに対する期待が大きかったよう

です。しかしながら、当時「夢の光:放射光」というキャッチフレーズが良く使われましたが、現在もそのまま「夢の光」で有り続けており、喜んでいいのか、複雑な気持ちです。おかげさまで、見学者の数は減ることもなく、施設の案内が仕事の一つとして定着してしまいました。

装置が10年もたつと、そろそろ各部に疲れがでてくるようで、延命措置が必要となっていました。数年前から少しづつ手をいれてきましたが、真空管や大電力の部品など技術が成熟しているものは、同じ型式のものは無くなってしまっても、代替品が使えるので安心です。一番問題なのは計算機です。この技術が日進月歩でその価格も信じられないくらいに安価になったことは歓迎すべきことですが、その恩恵はほとんど受けられません。まだ十分使用できる状態なのですが、もし故障すると修理できない状況になるので、リプレースしか方法がありません。ハードウェアだけをリプレースしようとしても、ソフトウェアに互換性が無いか、あるいはあったとしても、動作速度が早すぎて周辺装置などが追随できず、実際上使用不可能となってしまいます。したがって、ソフトウェアを含めてリプレースするしかないので、大きな出費となります。運良くというか、2000年問題にかこつけて予算が獲得できたので、リプレースすることができました。この仕事を通じて、計算機が一番寿命の短い部品であることを教えられました。

小型のSR装置が大学や企業に導入されるようになり、放射光技術も着実に進展しています。SRリソグラフィ技術も研究室レベルでLSIを作製できるようになり、最近では、放射光による分析技術が毒物事件の解決に役立ったことが話題になりました。しかし、SR装置がありふれた装置となり、話題にものばらなくなり、SR施設に見学者が訪れなくなるのが本当の発展といえるのでしょうか。

退官された先生方の近況

村上 吉繁（福井工業大学）

昨年、イギリスで開催の低温国際会議 ICEC 17 に出席した。その後、ロンドンの大英博物館を訪れる機会を持った。

博物館の玄関を入り左側の部屋に古代エジプトの遺跡がある。幾つかのファラオの石像とともにエジプト象形文字解読の鍵となったロゼッタ石もある。巨大なファラオ像に圧倒された後、隣の古代ギリシャ遺跡の部屋に入る。

まず、パルテノン遺跡のゼウスをはじめとするギリシャの神々の彫像が眼にはいる。人間くさい神々の生き生きとした表情、ファラオの巨大石像で圧倒された後だけに暢び暢びとした朗らかな気分に浸る。専制君主とキリスト教から開放されたルネッサンスの人々の歓びが蘇ってくるかと思われた。

そのとき長年の疑問「何故、科学は西洋に生まれアジアでは生まれなかったか」の答えが得られようと思つた。科学と哲学の淵源はギリシャ精神に求められよう。ギリシャのデモクラシーのもとで、多くのディスカッションと厳しい批判が繰り返される中で科学の芽が育てられたのではなかつたか。

中国では、専制君主国家が続き、儒教も君主に如何に仕えるかの域にとどまつてしまい科学が育つ余地はなかつた。古来日本の文化は中国に由来している。儒教はわが国では武士道として醇化され、お家大事の「忠臣蔵」を生むに至つた。しかし一方では、武士階級に節度を守る動機を与え、明治維新を成功せしめたように思われるが、これは司馬遼太郎の領域であろう。

デモクラシーはどうであろうか、儒教的体質がわが国で未だに脈々として生きているなかで、他国より与えられたデモクラシーは儒教と結合して、東大を頂点とする学歴ハイエラーキを形成する教育制度になつてゐるのであろう。その弊害は、お上を敬って協調すべしとなり、昨今しばしば指摘される官僚政治の欠点として現れているように思われる。

デモクラシーは弱く脆いものである。かつてのソ連、現在の独裁国家の現状を見てもその感を深くする。試行錯誤を続けながらも育て守つて行かねばならない。そのうえで、阪大は設立以来の伝統から考えても、独自の特長を再認識し、協調もさることながら独創性を尊重すべきであろう。私が所属する私学では、学生には、なおさら、「ハイテク」とか「英語尊重」とか言つても通じない。「悪い教師は居ても、悪い生徒は居ない」と言う言葉を思い出しながら、学生が独自の道を切り拓くために何を教え、卒業研究ではどのような研究題目を与えるかと苦労しているのが現状である。

阪大独自の特長は多々あろうが、私は敢えて超伝導とレーザを挙げたい。二つとも 21 世紀を先導する科学技術の鍵であるだけでなく、デバイス開発と高精度計測の道具として 21 世紀物理学を切り拓く力を持っていると考えている。

阪大の特長は多々あろうが、私は敢えて超伝導とレーザを挙げたい。二つとも 21 世紀を先導する科学技術の鍵であるだけでなく、デバイス開発と高精度計測の道具として 21 世紀物理学を切り拓く力を持っていると考えている。

《湯電会の皆様に助けられて、仕事を楽しんでいます》

月並みですが、早いもので、間もなく退官から2年を迎えます。退官の翌日からお世話になった、高知工科大学情報システム工学科は、学生定員が80人、現在1、2年生併せて、約180人が在籍しています。この学生たちを、14人ばかりの教員でお世話していますが、教員の中には、島村和典教授〔電47、電修49〕と岩田助教授〔子61、子修63、子博H3〕が居られます。また、阪大で学位を取得された有吉弘教授や清水明宏助教授も含めると、湯電会関係者が比較的多いです。

高知工科大学は、いわゆる公設民営方式の大学で、高知県の財政的支持の下で、純粋な私学として運営されています。現在、情報システム工学科のほか、社会システム工学科、知能機械システム工学科、物質環境システム工学科に加えて、電気工学科に居られた平木名誉教授が学科長を務めて居られる、電子・光システム工学科があります。この春には、大学院博士課程が学部の完成を待たずに設立され、一専攻8コースの、博士前期課程、博士後期課程が同時に発足しました。変わったコースとしては、起業家コースと言うのがあります。加納剛教授〔電36〕が中心になって活躍して居られます。

情報関係では、情報システム専攻と情報通信システム専攻の2コースの設立が認められました。前に書きましたように、まだ設立後2年の大学ですから、卒業生は皆無ですので、今年度の情報関係コースの入学者としては、社会人入学者と他大学からの受験者など、博士後期2名、博士前期3名の大学院学生をそれぞれ受け入れ、ほぼ順調な出発をしました。

このほか、一昨年の12月から、日本テレコム株式会社が新しく設立した情報通信研究所の所長を務めることになり、このところ毎週1ないし2日は東京・八丁堀に通勤しています。この研究所は、日本テレコムと、国際通信専門であった、ITJとが合併したのを機に発足した、研究者が約70人の、小さな組織ですが、幸い、順調に立ち上がり、最近ではPRISM構想と言う、IPベースのネットワークへの転換シナリオを発表しました。ここでは、PRISMを詳細に紹介する紙面がありませんが、新聞・雑誌等でもかなり報道されましたので、ご記憶の方もいらっしゃるかと思います。この研究所でも、林秀樹〔通修H2〕、岡廻隆生〔通修H6〕、早田叔弘〔通修H7〕、日浦雄介〔子H7〕、前田隆之〔情H7〕、吉井秀樹〔通修H10〕など、若い湯電会員諸君が活躍しています。

これらの勤め以外にも、湯電会の会員を始め、多くの方々に助けられて、仕事を楽しめていただいている。今後とも、湯電会会員のお世話になることが多いと思いますが、どうか宜しくお願ひします。

《この大学の紹介と、脳の話》著の会雲系

私は現在、当大学の電気電子工学科の学科主任などを忙しくやっております。所在地は阪急神戸線武庫荘駅北西の国道171号線沿いですが、考えて見れば地名をまったく冠しない大学名も珍しいと気付きます。実は当大学は、かって日本の鉄鋼メーカーが国の基幹産業として、さらに世界を制していた頃に企業技術の将来を担う人材養成のために関東に4年制の、関西に2年制の鉄鋼大学を設立する雄大な構想で土地や施設の準備がなされました。しかし、やがて国立大学工科系学生の大量養成体制が整ったことと、鉄から電機、自動車などの第二次産業への国家政策の移行に伴い、結局関西に一校、それも一般入学生も含めた産業技術短期大学として再発足致しました。

現在、情報工学、電気電子工学、材料工学、機械工学、構造工学の5学科より成り、入学定員390名、在校生840名の技術系固有の短期大学として全国でも特色ある大学となっております。それは、今なお鉄鋼学園経営で全国の鉄鋼企業から中堅クラスの企業生が派遣されて集中勉学しており、クラスでの割合は2～3割ですがリーダーとなって始業の号令などをかけるので、初めての先生は面喰らうことがあります。

この大学には阪大工学部からも多数の先生が来られて関係が深い。本会関係では電磁エネルギー専攻の石村先生、里見先生が教授として在任され、講師としては通信工学専攻の滑川先生、森永先生、三瓶先生が指導され、近く電気工学専攻の松浦先生もお見えになる予定です。その他レーザー研からの金辺先生や原子力からの広田先生など多氏才才です。

現在世の中の私立大学は、若者人口の減少と国立大学からの推薦入学勧誘合戦などにより、いずれも熾烈な入学生獲得競争に巻き込まれており、当短期大学当局も専攻科準備などで存続対策に奮闘中ですが、今なお学生9人に1名の教育陣と、そのうち6割以上の学位保持者のレベルを保って研究設備予算も組まれています。

次に私の近況を紹介させていただきますと、阪大での超伝導研究とは異なって、小規模でも可能な新しい学問分野でのテーマ展開をめざして、生体電磁気実験室の看板を上げて脳波の測定解析を始めています。超伝導から、どうして脳波に移ったのかとよく聞かれますが実は共通点があるのです。それは現代科学の一つの柱に、電子などの多数粒子が複雑な相互作用の結果、集合系として新しい振る舞いをする多体系の問題があります。その典型例が超伝導電子系で、各波動関数位相の強い相関のもとで系全体が一つのマクロな量子相状態を形成しています。ところが脳も10の10乗個ぐらいの脳細胞の集合で、神経回路網の10の12～13乗個のシナプス接合を通じて情報のやりとりをして、脳全体の統一された知覚、認識、記憶、判断の機能活動をしている。これは一種の凝縮系相状態と考えられるが、まだ詳しいことは判っていません。

脳の働きを客観的に観測するために頭表面に電極を多数付けて、脳活動に伴う電位波信号を測定して見ると、各神経を走る乱雑なインパルスの重畠とはとても見えない単純な律動波のスペクトルが観察されます。これが脳波のアルファ波、ベータ波…成分です。

現在、当研究室の学生はポケモン騒動の光過敏性患者の脳波を、閃光刺激のもとで観測してその特徴をカオスの観点から解析することに熱中しています。

夕方大阪を出て、特急で福井へ。ネオンの消えた夜の駅前でタクシーに乗り、「金井学園の健康増進センターまで」とか「温泉センターまで」と運転手に言う。「福井工大には温泉があって、一般の人でも泊めて貰えるそうですな。」「温泉のある大学なんて他にはちょっとないんでしょうな。」「ここ10年来雪が降らんので、ぎょうさんあった民宿も皆やめてしもちょるよ。」「昔は、冬場はスキー場で働いて、夏だけタクシーに乗ってましたんやが、最近は年中タクシーですわ。」などと運転手の話を聞いている間に、10分足らずで目的の温泉センターに着く。

これをほぼ毎週繰り返している内に、早や2年が経ちました。大阪大学や関西の企業から来られた先生方が大勢おられるので、赴任早々から余り違和感もなく楽しく過ごしております。

阪大時代には講義は半導体関連だけだったのですが、福井では電磁気学、プラズマ物性、医用電子機器といった慣れない科目を担当しております。45年ぶりに電磁気学の教科書を広げたりしましたが、お陰で、電磁気学はこういう風に体系化されていたのかを改めて認識するという余得もありました。しかし、茶髪だけでなく、ピンクや銀髪までいる学生相手ですから、電磁気学を体系的に教えるなんてとんでもない話で、小さい電気関連の会社に就職した時、恥をかかない程度の内容を演習付きでしつこい位に繰り返し講義しております。授業時間（福井工大では講義と言わない）に教科書を持って来ずノートもとらない学生が大部分ですから試験の出来が悪いのは致し方ないことで、如何にして欠点（50点未満）の学生数を1割以下の目立たない数に抑えるかに頭を悩まします。阪大でも同じ悩みがあったことを思い出します。週3~4コマの授業のため正味2日を福井で過ごしますが、その間に卒業研究生や大学院生の指導もやりますので、結構忙しい2日間もあります。今は卒業研究に匂いセンサを取り上げており、金属酸化物の粉末を空気中で焼いたり、匂いガスを流した時の抵抗変化を測ったりさせています。物性の基礎がなく、学生実験感覚の学生相手で手間のかかることが多いのですが、“郷に入れば、郷に従え”で、気楽に気長にと開き直っています。

「福井は魚がおいしいでしょう」とよく聞かれますが、カニや魚が本当においしいのは三国や小浜の漁港の近くだけではないでしょうか。先日、福井県下の旨いもの処を紹介するテレビ番組を見ましたが、福井市内のことではホテルのフランス料理（カニ料理でしたが）を紹介していた位ですから、市内には気の利いた料理屋はないと言うのが多分当たりでしょう。私が福井の名物だと思うのは、羽二重餅でも“けんけら”でもなく、寒い季節だけ店頭に並ぶ水羊羹です。黒砂糖と小豆を原料にした素朴な味わいの、薄い板状の水菓子ですが、福井の人々にとってはお正月に欠かせない食べ物のようです。福井駅2階のステーションデパートやキオスクで幾種類かを買うことが出来ます。

退官後は自由になる時間が大幅に増える筈でしたが、当て外れで結構忙しい毎日を送っております。ゴルフの回数も阪大時代と余り変わらず、腕も上がらずですが、これからは福井でのゴルフを出来るだけ増やしたいと思っています。大阪から行こうかと言う方がありましたら（これまでにお二人おられました）、どうぞ声をお掛け下さい。また、食べる方がよいと言う方のためには、美味しい物を食べさせて呉れる店をタクシーの運転手さんに聞いておきましょう。

生産性を高めると患者にされることもあります。最近、後者の開発に従事する。テクノロジーズ株式会社にて顧問として、新規事業の開拓を行なっています。この会社の開拓する新規事業の最重要項目は「人と人とのアーティファクトの重み」(モトヤマ製薬)。セミナーを主催して、新規事業の開拓を行なっています。

卒業生の近況

鷲野 翔一（電子・昭43、M45、D50）

昭和50年に三菱電機に入社して以来、早いもので24年が過ぎてしまった。入社当初（5年間）はカラーブラウン管用電子銃の開発を担当、幸いにもこれまで3000万本以上の量産に成功、発明表彰までいただいた。小生の会社での経歴はおおむね5年単位で変化している。昭和55年からは燃焼の研究へと事業分野と技術分野が同時に変わるという技術者にとっては、結構大きな変化に遭遇する。すなわち、自動車用エンジンの燃焼制御へと進んだのである。この結果、同じ工学部でも機械系技術者と電気系技術者の現象に対するアプローチの違いを痛感することになった。周波数に対する感覚の相違、データの取り方に対する感覚の相違など、非常に良い経験をさせてもらった。エンジンの燃焼制御がきっかけで、自動車機器分野に入り、以降、車両制御システムの開発、ナビゲーションシステムの開発、さらには、インフラストラクチャの開発へ進み、現在はITS（Intelligent Transport Systems）の研究・開発を担当している。ITSは国際的分野で最近は年に4～5回海外に出かけている。楽しく、文化の相違を感じながらすごしているこのごろである。

（三菱電機（株）産業システム研究所）

上浦 洋一（電気・昭44、M46）

川辺研究室で修士を修了後、開通したての山陽新幹線の「ひかりは西へ」とともに岡山の地を踏み、それ以来28年間岡山大学工学部で半導体中の欠陥・不純物の物性を研究しています。私の研究対象であるシリコンは、わが国の半導体産業の成長とともに品質が飛躍的に向上し、直径も30年前には1インチだったのが今は12インチにもなろうとしており、まさに隔世の感があります。この間、VLSI等電子デバイスの微細化・高密度化も極限近くまで進展し、それとともに微細かつ微量の結晶欠陥と言えども、デバイスに致命的な影響を与えるようになりました。私の仕事は、原子スケールの欠陥や不純物およびそれらの複合体の電気的・光学的特性や原子的挙動を明らかにすることと、それらを制御することによりデバイスの機能向上や新機能デバイスの設計に指針を与えることです。昨今の半導体産業の停滞を打ち破り、新しいデバイス構造など新規なアイディアを実現するためにも、大学における基礎的研究の意義は大きいと感じています。現在の研究室スタッフは私と30代の講師の2名だけですが、4月からは若い助手もスタッフに迎えて、ようやく陣容も整ってきました。学生さんは電気電子工学科から受け入れていて、4月からはドクター1名、マスター5名、4年生8名程度の規模になる予定です。2、3年前から立ち上げてきたシリコン系MBE装置も順調に稼働し、SiGe混晶薄膜も積めるようになりました。将来の光電子融合システムを睨んで、シリコン系の光電子デバイス作製の夢を膨らませています。満電会諸兄のご支援をいただければまことに幸いです。

（岡山大学工学部共通講座 教授）

堀上 江一（電子・昭48、M50）

閑話休題で近況報告に代えて。

日々マスコミを賑わしている環境問題。製品開発の視点も省電力化＝小型化追求から省電力化＝省エネルギー／省資源へと変化してきています。資源リサイクル化の重みの変化も然りです。

またインターネットによる社会変化も目を見張るものがあります。我が家でも遅咲きながらその環境を整え

ました。すると我が高一の娘でも、ちょっと使い方を教えてだけで、検索、メール、チャットと、どんどん勝手にその世界に入り込んでいっています。今の子供達の感性にはほとほと感心させられるばかりです。これらインフラの大きな変化をいつ予測できたのでしょうか。50年も前ではないでしょう？

ところがです。100年前の新聞に、「20世紀に実現できるもの」の事例として、衛星放送、携帯電話、東京－神戸間を鉄道で2時間半実現という予測（夢？）がされていたそうです。100年近く先を言い当てたとは驚くべきことではないでしょうか。

21世紀を間近にし、100年後はどうなっているか、時に真面目に、時に洒の肴に予測してみても面白いのではないか。でもこの不況の中、そんな余裕はないのかな？そんなことを思っている今日この頃です。

（松下電器産業（株）AVC社AVC商品開発研究所技術管理部）

佐野 正（電気・昭51、M53）『ケーブルテレビ業界は、今』

スカイパーエクTV 180CH！、ディレクTV 153CH！つい最近までテレビの多チャンネルサービスといえば、都市型ケーブルテレビの独壇場でしたが、CSデジタル放送の急激な普及で、その地位は危うくなっています。

さらに目的や効果が今ひとつはっきりしないまま、欧米に遅れてはならじと、放送のデジタル化が政府主導で進められ、2000年末からはBSの、関西では2003年から一般地上波のデジタル放送が始まります。

ケーブルテレビの伝送方式もデジタル化するためには、業界の年間売上額に匹敵する設備投資が必要であるともいわれ、原則として市域単位で設立された従業員数十人程度のケーブルテレビ局にとっては、存亡に関わる経営判断をしなければならない時期になっています。また、J-COMグループ等外資系の局を中心に合併や連携の動きも急です。

超成熟産業だった鉄道から今の仕事に出向して1年半がたちますが、64QAMがどう、OFDMがこうといった技術的なことはもちろん、企業の規模・仕事の性質などからくる風土の違いにはいまだにとまどい、模索の日々です。小さな会社の経営に関わりたいという思いは以前からあったのですが、それが現実にはどんな大変なことか次第にわかり始め、あわてているこの頃です。

はたしてケーブルテレビ業界の5年後10年後はどうなっているのでしょうか。

（（株）ケーブルビジョン西宮 金取締役技術部長）

牛田 英明（通信・昭58、M60）

早いものでコンピュータシステム開発を生業として14年が経ちました。入社当時には紙テープや紙カードを使うこともありました。在学中にはPCで作業をしていたので時代に逆行したような気持ちになったことが思い出されます。しかし、約束を作り守りシステム開発するという部分は入社して新鮮に感じたことの一つでした。この14年間に、インテル社のCPUならI8086からPentiumIIIへという変化がありました。

ダウンサイジングされたシステムの開発では必要ノウハウが多部門にばらばらと存在します。「試さないとわからない」ためにとにかく急いで作ることを求められることもあります。開発の融通がきくため「約束」が生産性を落とす悪者にされることもあります。最近、後者の開発に従事する機会が増えました。そこでは、従事者間のコミュニケーションの問題で製品が混乱状態となるケースが少なくはありません。このため、開発作業での最重要項目は「人と人とのつながり」であると感じ（悟りに近いですが）ています。確かに、ハードウェアやネットワークの進歩は著しいものがあります。それらの進歩し充足した環境を用いたソフトウェア開発で

個々の生産性を上げかつ開発現場の混乱を防ぎ全体の生産性や品質を上げることが現在の仕事になっています。

さて、今年は2000年問題の審判が下されることが多い年です。完全という言葉はないというのをここ二年のモットーにしようと考えています。

((株) NTTデータ)

堀田 昌克 (電子・昭60、M62)

国際電信電話(株)に入社してはや12年が経ちました。入社当時は二宮海底線中継所に配属され日米間を結ぶ海底同軸ケーブルの運用保守の業務に従事しておりました。その後研究所に転属され、それ以後、波長可変レーザや有機金属気相成長法の研究をはじめ、光アイソレータなどの海底中継器に用いられる高信頼度光部品の開発まで幅広い範囲で光通信用光デバイスの研究、開発に従事してきました。学生時代の研究と比較的似た分野で仕事をさせていただいているため、恩師の先生方やOBの方たちと学会でお会いすることが多く、研究について御議論いただいたり、旧交を温めたりできることをとてもありがとうございます。

通信業界では、国内、国際の垣根が完全になくなり、自由競争のもと厳しい価格競争の時代を迎えております。昨年、当社は日本高速通信(株)と合併してKDD株式会社となり、研究所も分社化されて株式会社KDD研究所となりました。大きく変化しつつある職場環境の中で次の世代の光通信システムに役立つデバイスの実現を目指し、日夜頭をひねっている今日この頃です。

安松 建郎 (電気・平元、M3)

大阪ガスに入社してから早いもので8年近くが経ちましたが、入社してから今日に至るまで研究開発部に勤務しております。ただし、仕事の内容はこの間に大きく変わっておりまして、入社当初は固体表面の分析を中心に行ってまいりましたが、現在は液化天然ガス(LNG)の配管からガスタービン高温部材まであらゆる用途の金属材料の「強度試験」や「超音波や電磁気を用いた非破壊検査」という全くの異分野に足を踏み入れています。

いくつか抱えている仕事の中で現在最も精力的に取り組んでいるのは、インバー鋼と呼ばれる鉄に36%ニッケルを添加した合金を用いたLNG配管の実用化です。インバー鋼は極低温においても脆くなることがなく、しかも線膨張係数がステンレス鋼よりも約一桁小さいため、熱収縮によって配管にかかる力を吸収する措置が不要になり、LNG配管の建設コストを約20%引き下げることが可能となります。このインバー鋼は溶接が非常に難しいという問題がありましたら、私はこの溶接部の評価を中心に行ってまいりました。インバー鋼を用いたLNG配管は99年度から順次導入される予定ですが、現在はその大詰めに忙しく走り回っております。

規制緩和という大きな時代の波の中で、仕事に追われてすぐ身近で起こっている些細な変化を見逃してしまいそうになりますがちな毎日ですが、常に自分自身のアンテナを高くして良き市民・社会人・夫・父であり続けたいと思う今日この頃です。

中垣 亮（情シス・平5、M7）

日立製作所に入社して4年の月日がたち、時の流れの早さに驚いている今日このごろであります。大学時代は藤岡研究室にお世話になり、EBテスタを用いた故障診断システムの研究を行っていました。

現在の私は、生産技術研究所にて半導体ウェハ等の外観検査装置の開発に従事しております。外観装置の開発では、そのキーとなる画像処理についての知識・技術が必要になるのはもちろんのこと、その画像処理技術を装置として実現するためのハードウェア／ソフトウェア技術も必要になります。入社当初は、ハードウェアに関する知識が全く無かったため大変苦労しましたが、先輩方等のお陰で何とかこれまでやってまいりました。本邦国際的な大競争時代を迎えて、我々を取り巻く状況はますます厳しくなっております。これからは、このような状況を勝ち抜くための新しい技術をスピーディに開発することを目標にがんばりたいと思います。

また、一昨年より、採用活動のため研究室にお邪魔させて頂いています。卒業後も先生方ははじめ研究室の皆様と接する機会があることを大変うれしく思っております。

（日立製作所（株）生産技術研究所）

総会・懇親会のひとこま



留学生の声

朴 在鉉（電子工学専攻・D3）

6年前、日本へ初めて来たときには、人々の顔や町並みの景観など韓国と類似している所が大変多く、自分が外国に来ているとはあまり感じられませんでした。しかし、日本の社会の中に入り込み生活を続けるうちに、除々に日本に来ていることが実感できるようになりました。とは言え、6年間という決して短い時間ではない年月を日本で過ごした者として、日本人について、「ああだ、こうだ」と分かっている風に言うほどの自信はありません。それは毎日、大学の研究室と家を往復する大変忙しくてシンプルなスケジュールが生活の全てであるためあります。

しかしながら今までの自分が見た日本について一言で表現してみると、「伝統を大事にする国である」という印象が強いです。他の国にくらべ、伝統的なものを大事にし、さらに現在の新しいものとの適切な調和をしている所が素晴らしいと思います。最近、全世界が一つのネットワークでつながっていることもあります。国々の個性があり見かけにくくなりかかっていると言われています。そのような状況の中でも日本は伝統を守り続け、日本らしさを十分、生かしていると私は思います。

また日本人は日本らしい伝統的なものにプライドを持ち、日本の国を訪ねる外国人に日本の文化および伝統を積極的に紹介する心持があります。様々な留学生向けの日本文化教室や、国際学会の開催時に準備された食事のメニューを見ても分かります。寿司や刺し身、そばやお茶など……。

新しいものの影に隠され、どんどんと伝統的なものが無くなっている自分の国の状況に比べると、日本は本当にうらやましい国であるとしか思えないのです。

高層ビルがたくさん密集している町に着物を来た日本人が歩いている風景は、いつまでも自分の心の中に日本および日本人の印象として残されていくと思います。

Riza Muhida（電気工学専攻・研究生）

私は、去年の4月に電気工学専攻の松浦研究室に来たインドネシアの留学生です。留学生として日本で勉強し生活てきて感じたことや思ったことなどを少し述べたいと思います。

私が日本に来て2年半経ちました。日本で色々な勉強をし、たくさんの経験を得ました。自分の専門のこ以外にも、日本で日本語、日本の文化、伝統、社会、また日本人の考え方、習慣などを学びました。ここで私は、日本人の習慣について、特に日本の学生の勉強の仕方について話したいと思います。

日本に来る前に“Asiaweek”と言う雑誌を読んでいました。その雑誌の中で「アジアのBest Universities」について書かれています。その中で優秀な大学とランキングされた上位の大学は日本の大学でした。それはなぜなのか、いつも心の中で自問していました。その答えは日本に来るまで見つけられませんでした。日本に来て、大阪大学で勉強するようになり、その答えをようやく見つけることができました。その答えは次のことなことです。

1. 日本人の学生と先生は勉強や仕事に取り組む時間を非常に大切にすることでした。時間を大事にして一生懸命その時間を使います。
2. 大きな問題や実験、及び研究に対してチームワークが強く、お互いに協力して取り組みます。協力して、仕事研究に取り組むことにより早く完成し、完成度も高くなります。

3. 間違いがあったらすぐに積極的に改善します。改善はフィードバック制御システムと同じように、間違いがあればフィードバックして目的を達成するまで、ずっとフィードバック（改善）を行います。仮に間違いに気付けば、納得のいくまで積極的に改善することを心掛けています。

これらの三つの答えは、日本が教育や研究に対し十分な予算をかけ、設備が非常に完実していることによるものだと私は考えます。これにより、日本の研究や教育はアジアでトップレベルに向上し、ますます技術が進歩しているのではないでしょうか。

大阪大学工業会

ご寄付

以下の御寄付を戴いております。ここに記して厚く御礼申し上げます。

1. 名簿関係

中山 茂 様（電気・昭23）￥2,000 角尾 昌彦 様（通信・昭36）￥2,000

2. 一般寄付

北村 显 様（通信・昭35）￥4,000 安部 可治 様（電気・昭37）￥4,000

長野 能久 様（電気・平元）￥4,000 岡本 昌洋 様（電気・平3）￥4,000

服部 渉 様（電気・平4）￥4,000 堀 善彦 様（情報・平8）￥4,000

事務局からのお願い

濁電会事務局へのお問い合わせ事項で目立ちますのは、「終身会員であるのに会費の請求をしてきた」ということです。これは、大阪大学工業会と濁電会とを混同しておられるためと思われますので、工業会と濁電会との関係について簡単にご説明いたします。

大阪大学工学部（その前身校を含む）には、学部全体の同窓会「大阪大学工業会」と学科または系の同窓会（たとえば電気系学科であれば「濁電会」）があります。したがって、濁電会の会員のうちほとんど全ての方は同時に大阪大学工業会の会員なのです。すなわち会員構成の面では濁電会は工業会の下部組織といえます。

ところが、工業会と濁電会とは財政的には全く独立しております、それぞれが独自に会費制度を設けております。したがいまして、工業会会費をすでにお払いになった方、あるいは工業会の終身会員の方からも、濁電会会費（年会費一律4,000円）を頂戴しております。また、濁電会では終身会員制は設けず、毎年会費をお納め頂いております。

会報や名簿の発行などを含め、濁電会の活動は全て会員各位からの会費に依存致しております。濁電会の健全財政確立のため、今後とも会費納入につきましてよろしくご協力の程お願い申し上げます。

なお、勤務先、住所の変更などにつきましては、工業会とは別途に、濁電会にもお知らせ下さいますよう切にお願い申し上げます。

研究室紹介

通信工学専攻

光電波通信工学講座

電磁波工学領域



教授 塩澤 俊之

本領域は、昭和 15 年に通信工学科が創設されたのに伴い、通信工学科第四講座として、昭和 17 年に設置された。当初の講座内容は、電子工学、特殊通信工学であって、菅田栄治教授担当のもとに、電子幾何光学、電子顕微鏡、電子放出現象および超高周波領域における電子現象などの分野において顕著な成果を挙げた。昭和 33 年に菅田教授が新設された電子工学科へ転出した後、講座内容は超高周波工学に変更され、板倉清保教授、熊谷信昭助教授の指導のもとに、電磁波論、相対論的電磁理論、マイクロ波・ミリ波工学、光伝送、光デバイス、レーザ応用などの分野において多くの先駆的な成果を挙げた。昭和 46 年熊谷助教授は通信工学科第一講座担当の教授に昇任し、昭和 56 年板倉教授が定年退官した後、しばらく熊谷教授が本講座を兼任したが、昭和 59 年倉薗貞夫助教授が担当教授に就任した。倉薗教授は平成 9 年に定年退官し、その後、本領域の助教授を務めていた塩澤俊之（通信・昭 39, M41, D 44）が教授に昇任し、現在に至っている。

研究室の正式名称は、大学院重点化による改組により標記のように改められた。現在の研究室の人員構成は、教授 塩澤俊之、助教授 松本正行、助手 平 雅文、事務補佐員 原 千登勢の教職員と大学院生 12 名、大学院留学生 1 名、学部 4 年生 7 名である。また、本年 4 月から、客員研究員としてウクライナのハリコフ大学からゲンナジー・ザギナリオフ教授を迎えることになっている。

現在、学部の電磁理論、電磁波工学、数値解析の講義を担当し、大学院では、電磁波論、マイクロ波・ミリ波工学および光波工学（前期課程）ならびに光電波通信工学論（後期課程）の講義を担当している。

本領域は、情報伝送における搬送波の役割を担う電波や光を含む広い周波数領域における電磁波の発生、放射、伝送、制御、ならびに通信・計測その他の分野への電磁波の応用に関する研究に取り組んでおり、主な研究テーマは以下の通りである。

- (1) 光波通信用各種光デバイス、光集積回路の研究
- (2) マイクロ波、ミリ波集積回路の研究
- (3) 自由電子レーザによるミリ波、サブミリ波発生の研究
- (4) 移動体通信用小型アンテナに関する研究
- (5) 電磁波の環境に及ぼす影響評価

特に、本領域では基本を重視し、電磁理論を基礎として、コンピュータを用いたシミュレーションにより、各種の電磁波デバイスの特性解析とそれに基づく設計法の確立を進め、新しい応用分野の開拓を目指している。

電子工学専攻 集積電子システム工学講座 電子システム工学領域



教授 福西 宏有

本領域は、1960（昭35）年に開設された「制御電子工学講座」にその淵源がある。同講座は、1989（平元）年「制御システム工学講座」と名称変更された後、1996（平8）年に大学院重点化とともに、現在の「集積電子システム工学講座（大講座）」の「電子システム工学領域」に移行した。設立当初は宮脇教授（1961-1970）により医用電子工学、人間工学、教育工学の研究が行われ、その後、児玉慎三教授（1974-1995）によって、システム理論、回路網理論、多変数制御、ロバスト制御、ペトリネットなどの研究が推進された。1998（平10）年9月より福西宏有が担当している。12月には宋文杰助教授が加わり、1999年2月現在、大学院生2名、学部学生4名が研究陣容である。本領域では脳の情報処理システム、とくに聴覚に関する研究を行っている。脳は複雑大規模でダイナミックな情報処理システムである。このような脳の研究には、本領域の系譜で行われてきた制御、システム解析などの研究をさらに発展させるとともに、これらの方法、技術をもとにした工学的な研究アプローチを探ることが肝要であると考えている。このようなアプローチによって、脳における音声情報処理原理の解明から脳に学んだ音声情報処理方式の構築や医療工学への応用まで、科学と工学のフロンティアを拓く研究室とすべく努めている。

具体的な研究内容は下記の通りである（今後の展開予定も含む）。

- (1) 動物の大脳皮質聴覚野における音声情報処理の研究
 - ・多点同時計測手法の開発
 - ・聴覚情報処理神経活動のパターン計測
 - ・音声情報の符号化の解明
 - ・音声情報処理神経伝達メカニズムの解析
- (2) 学習、自己組織化メカニズムに関する研究
 - ・脳に於ける音声情報の学習・自己組織化様態の同定
 - ・細胞レベルにおける情報伝達と可塑性に関する研究
- (3) 医療工学に関する研究
 - ・神経賦活化、制御による機能再建方式の研究
 - ・聴覚機能支援方式の研究

卒業後、新聞社への入社にみみ切った話、長岡さんは卒業後自衛隊へ入ってからも、通信で大学院2年と並行して相当する防衛大学院も卒業、父軍人であった父の戦跡ノモンハンも訪れ、関係者を勉強し、今は最先端技術を通信大学で、勉強のとおり、宋文杰さんは、今年三歳から現職としては退かねばならず、人材求めのためこの十数年、全国の大学を訪問、諸

情報システム工学専攻

情報システム工学基礎論講座

情報システム基礎論領域



教授 村上 孝三

(電子・昭 46)

本領域の源流は、1959（昭34）年に設置された電子工学第4講座（電子機器工学）であり、1960年より故喜田村善一名誉教授が担当教授に就任し、実質的に創設された。創設当時は我が国初の電子交換機の研究やディジタル通信網の開拓的研究が推進された。その後、1976（昭51）年からは寺田浩詔教授（現名誉教授）が担当され、平成元年には新設の情報システム工学科に移り、情報システム工学基礎論講座として再編された。この間、データ駆動原理に基づくプロセッサーアーキテクチャや図的仕様記述言語など、高性能情報処理システムに関する新しい研究分野の研究が進められた。1998（平10）年より村上孝三が就任し現在に至っている。現在の陣容は、戸出英樹講師、木下和彦助手、江木康雄技術専門官、佃真理子事務補佐員のスタッフならびに大学院生12名、学部生9名、研究生2名である。

コンピュータの高性能化、パーソナル化とネットワークの高速、大容量化に伴い、創設時代からの伝統である通信と情報処理の結合がますます重要になっている。両者のシームレス結合により利用者に柔軟で高機能なサービスを提供する新しい情報ネットワーキング技術の研究開発が強く要請されている。本領域では、情報システムの基盤となる情報の処理技法に関して、並列・分散処理技術を基盤とする高機能情報処理システムとその知的ネットワーキング手法の開発を主要テーマとしている。特に、コンピュータ間通信の超高速化技術、属性の多様なマルチメディア情報の統合的ネットワーク処理技術、広域分散に伴う効率の良い資源共有方法等を中心にシステム構成法とその実現技術に関するハードウェアおよびソフトウェアの研究を行っている。

具体的な研究内容は以下の通りであり、基礎研究と開発研究の両面から推進している。

(1) マルチメディア情報通信網システムの研究

ATM（非同期転送モード）通信技術をベースとする高速通信網のシステム構成技術、音声／動画像に関するマルチメディアサービス適応技術、マルチメディアルータ、マルチメディアトラヒックのモデル化および制御技術

(2) ホロニック光情報ネットワークの研究

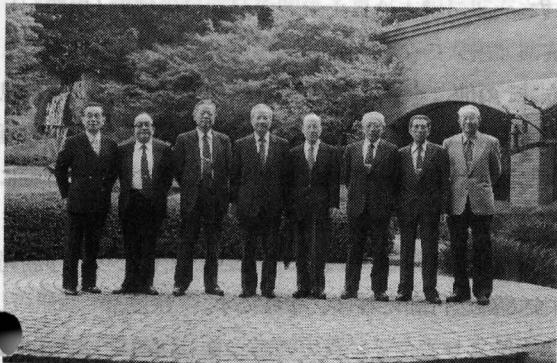
光符号分割多重型／波長分割多重型フォトニックスイッチング技術、自律ルーティング／動的経路制御技術、ネットワークマップによるネットワーク可視化技術など、光の高速性を生かした全光型の次世代ネットワークに関する研究

(3) 高度サービス制御アーキテクチャの研究

分散エージェント間通信による知的ネットワーク処理技術、位置透過性を有する広域分散処理システム、図的仕様記述言語体系など情報ネットワーキングアーキテクチャとそのための知的情報処理システムの研究

同窓会だより

'98年度、通信26会同窓会



小山(幹事) 金田 尾埜 室田 浅居 長岡 佐藤(幹事) 藤原

錦秋の11月13日午後、新設のJR東西線の大坂城西口に近い、太閤園にて、快晴の元、数多の婚礼式に交じって桐の間にて通信26年卒業生の'98年度同窓会が開かれました。

参加者は、東京からは長岡さん、関西から浅居、尾埜、金田、小山、佐藤、藤原、室田さんの計8名、一年ぶりの再会で、開会に先立って、10名の亡き旧友の方々に思いを馳せ、現会員26名の健康を記念して乾杯、三時迄食事と共に各人の近況、取って置きの話に花が咲きました。浅居さんが、技術将校として戦争中の水陸両用戦車の開発、尾埜さんは、HKで、東海地震に備える想定模擬練習の映像が深夜外部に発せられ、大騒ぎとなったS49年の失敗、思い込みの怖さの反省談、藤原さんは、古野電気の魚探を保安庁や自衛隊に採用迄の壁の厚さを崩していた話、佐藤さんは、入学以前から、文化系志望で、卒業後、新聞社への入社にふみ切った話、長岡さんは卒業後自衛隊へ入ってからも、通信で大学院2年と、旧陸大に相当する防衛大学も卒業、又軍人であった父の戦跡ノモンハンも訪れ、関係書を勉強し、今は最先端技術を通信大学で、勉強中との事、室田さんは、今年三菱から現職としては退かれた事、人材集めのためこの十数年、全国の大学を訪問、諸

先生と知り合えたことが収穫だった事、心臓、白内症の手術後も、回復された話、金田さんは、長岡大学で、ガリウム砒素半導体の研究に掌ったこと、最後に、小山幹事は、今年ルーブル美術館で、出合った、エジプトの天体図（デンデラ神殿のゾディアックと呼ばれる）の文字、浮彫を文献から読み解き、小論文を作り又、独、佛に次ぎ、イタリア語も勉強中との話と続き、盛会裡に終了。

次回は来年より、室田さん、尾埜さんの新幹事のもとで、進める事となりました。

(小山記)

ネオ・コム28(新制通昭和28年卒)

卒業45周年記念同窓会

平成10年5月16日、17日「横浜および鎌倉にて」

前回('96年5月)は高知で活躍中の藤戸君のお世話を龍馬の国は土佐で久しぶりの再会を喜び、その日の朝まで土佐湾でご活躍中であった鰯のタタキの本場風、さわち料理、地酒で大いに盛り上りました。そのとき、誰言うとなく、「みんなえゝ令になってきたからチョイチョイ集まらなアカンなー」。

一瞬の静寂の後、満場一致で「ヤロヤロ」「卒業45周年で再来年やろう」というわけで今回の“卒業45周年記念同窓会”となりました。

開催地もこれまでの西日本から東日本に移し、ランドマークタワー、ベイブリッジ等ウォーターフロン



ト開発が見もの横浜と古都鎌倉の散策という新旧コントラストの見事な企画となりました。

そのせいか、参加者も40名中32名(80%)という効率になり、16日の夜は中華街での呑みかつ食い、そして歓談に時の経つのも忘れ、それでも語り足りずホテルのロビー、閉店後のレストランまで場所を替えて(名幹事の心にくい手配か?)深夜まで語り合いました。東野田こと、仕事の厳しさ、現在の世相への憤慨、環境ホルモン、孫のこと、不況の電子回路的考察、○○○にもてる法……等々話題は尽きず文字通り朝まで語り明かさんばかりでした。

(現役:引退=24:16、孫総数=57+α)

翌朝は、夜來の雨がまだ激しく、一時予定の変更も考えましたが、出発時刻には小やみになり、お昼前には日が差し、横浜組、鎌倉組それぞれ予定のコースを散策後、また再来年の再会を約して解散しました。

(塙崎記)

その他、本会「電気昭和13年クラス」の『消息集』が、鴻電会事務局に届けられております。遠藤常定氏が中心となって作成されたものです。御覧になりたい方は、本会事務局の方へ御連絡下さい。また、同様な印刷物が他にもございましたら、事務局まで御送付願えれば、幸甚です。

卒業祝賀・謝恩会のひとこま



母校のニュース

先導的研究オープンセンターの本格的運用開始

近年、政府の科学技術関係予算が大幅に拡充されており、とりわけ、科学研究費補助金の大幅な拡充や、政府出資金を活用した新たな事業などは、国立大学を始めとする、我が国の学術研究における国際的貢献に対する期待と要請のあらわれと言えます。

先導的研究オープンセンターは、このような政府出資金等の競争的資金をより効率的に活用し、研究の推進・活性化を図る目的で平成9年度に設置されました。具体的には、政府出資金等を受けた学内の研究者を中心とするグループにそのプロジェクトの期間中、共同研究の場を提供し、弾力的、流動的に運用を行います。このような汎用的でオープン化された研究施設は全国にも例がありません。

平成10年度から本格的に運用が始まり、平成10年9月にはオープニングセレモニーが行われました。現在は26のプロジェクトが本センターを利用しています。全学施設であるため、工学研究科を始め、基礎工学研究科、医学系研究科、理学研究科等から多くの優れた研究者が多様な研究を行っているのも本センターの特長といえます。

電気系からも、以下のように多数のプロジェクトが利用しています(平成10年度)。

研究代表者 研究テーマ

辻 豊一郎 教授 環境負荷低減を目的とした新しい自律分散型都市エネルギーシステム

佐々木孝友 教授 波長変換結晶の高品質化技術の研究開発

伊藤 利道 教授 ダイヤモンドによる次世代電子エミッターの開発

(以上、電気工学専攻)

西原 浩 教授 ホロニック光情報ネットワーク

尾浦憲治郎 教授 炭素系高機能材料技術研究開発



吉野 勝美 教授 電子機能性浸透ネットワークを用いたチューナブル・フォトニクス結晶—設計、創製およびデバイス応用—

(以上、電子工学専攻)
西尾章治郎 教授 マルチメディア・コンテンツの高次処理の研究
(情報システム工学専攻)

岸野 文郎 教授 実空間・仮想空間融合型協調作業通信環境に関する研究
(電子情報エネルギー工学専攻)

本センターは鉄筋6階建て、延べ4000平方メートルの面積を持ち、各階には新材料、情報、生命、化学、複合分野について、各研究プロジェクトが必要に応じて自由に利用空間を設定できるように、大規模な研究ゾーンが確保されています。2階には50人を超える規模の会議室があり、研究会等にも利用されています。

各研究ゾーンには、電気、ガス、給排水、冷暖房、通信回線の他に、ドラフト排気口、液体ヘリウム回収管、窒素ガス、圧縮空気(予定)などの基盤的な設備が備えられており、共通設備としては、純水製造装置、製氷機、超低温フリーザー等を設置しています。今後も各種予算によって必要となる共通設備を

充実させる予定です。それ以外の研究に必要な設備は各プロジェクトが持ち込んで利用し、研究期間が終われば次のグループのために撤去することになっています。

本センターは固定した学問の研究を目的とした施設ではなく、汎用的でオープンな研究空間を提供するのですが、併せて、新たな学問分野・共同研究の生まれる場として機能することが期待されています。

(藤田 玄 (情報・平7) 記)

工学研究科・工学部のホームページのご案内

大阪大学 大学院工学研究科・工学部では、情報公開の一環として各種情報をWWW (World Wide Web) のホームページ (URL:<http://www.eng.osaka-u.ac.jp/HomePage-j.html>) を通じて公開し、学内の教職員・学生のみならず、工学部を受験しようと考えている高校生をはじめとする学外の人々にも有用と考えられる情報を提供している。具体的には、以下の情報をこのホームページを起点として閲覧することができる。

1. 工学研究科・工学部について

工学研究科長からのメッセージ、工学研究科・工学部の歩みと特徴、工学研究科・工学部へのアクセス手段、入学から卒業までの教育課程などの情報を提供している。

2. 各専攻のホームページ一覧

各専攻についてのより詳しい情報は、このページから辿ることによって得ることができる。因みに電気系各専攻およびレーザー核融合研究センターのホームページは次の通りである。

<http://www.eie.eng.osaka-u.ac.jp/> (電子情報エネルギー工学専攻)

http://www.pwr.eng.osaka-u.ac.jp/index_j.html (電気工学専攻)

<http://www.comm.eng.osaka-u.ac.jp/> (通信工学

専攻)

<http://www.ele.eng.osaka-u.ac.jp/HomePage-J.html> (電子工学専攻)

<http://www.ise.eng.osaka-u.ac.jp/> (情報システム工学専攻)

<http://www.ile.osaka-u.ac.jp/ILE-jp.html> (レーザー核融合研究センター)

3. シラバス (授業概要)・履修要覧

各年度の工学部各学科の概要、教育課程表、専門教育科目のシラバス (授業概要) を提供している。

4. 工学研究科・工学部研究業績データベース

学術論文、著書、作品などの工学研究科・工学部の教官の研究業績を、題目、著者、キーワードなどを用いて検索することができるデータベースを提供している。平成11年3月現在、平成7年1月から平成10年3月までの研究業績データを収録している。

今後、このホームページの内容をさらに充実させていく予定である。このホームページに関するご意見、ご要望があれば、webmaster@eng.osaka-u.ac.jpまでお寄せ頂きたい。

(工学研究科 情報通信システム委員会

委員長 西尾 章治郎 (情報システム) 記)

教室情報

▼平成11年度 学生見学旅行

電 気

- 3月9日(火) (株)東芝 浜川崎工場(川崎市)
3月10日(水) 日本電気(株)中央研究所(川崎市)
(財)電力中央研究所 横須賀研究所(横須賀市)
3月11日(木) 日産自動車(株)追浜工場(横須賀市)

参加学生人数: 41名

引率教官: 松浦虔士教授、河崎善一郎助教授、

舟木剛助手

電 子

- 3月3日(木) 日本ヒューレットパッカード(株)八王子事業所
オリンパス光学工業(株)技術開発センター石川(八王子市)
3月4日(金) 日本電気(株)玉川事業場(川崎市)
(株)東芝・研究開発センター(川崎市)

参加学生人数: 41名

率教官: 濱口智尋教授、森伸也助教授、

森藤正人講師

情報システム

- 3月10日(水) トヨタ自動車(株)高岡工場、本社(豊田市)
3月11日(木) 富士通(株)川崎工場、(株)富士通研究所(川崎市)
3月12日(金) NTT移動通信網(株)NTT DoCoMo R&Dセンター(横須賀市)
日本エリクソン(株)通信技術開発センター(横須賀市)

参加学生人数: 41名

引率教官: 村上孝三教授、戸出英樹講師

なお、通信工学科目については、平成11年度より春期見学旅行は取り止めとなりました。また、電気系四学科目とも、夏期の関西地域企業見学は従来通り行っています。

▼平成11年度五専攻長

- 電 気 工 学 専 攻 松浦 虔士 教授
通 信 工 学 専 攻 塩澤 俊之 教授
電 子 工 学 専 攻 濱口 智尋 教授
情 報 シ ス テ ム 工 学 専 攻 村上 孝三 教授
電 子 情 報 エ ネ ル ギ ー 工 学 専 攻 岸野 文郎 教授

▼電気系人事

- 長井圭治 助 手 採用 10.5.1 レーザー
戸田裕之 講 師 升任 10.6.1 通信
戸出英樹 講 師 升任 10.6.1 情報
加藤義章 教 授 辞職 10.6.30 レーザー^(日本原子力研究所)

- 関西研究所光量子科学センター研究主幹
福西宏有 教 授 採用 10.9.1 電子
森 伸也 助教授 升任 10.10.1 電子
片山光浩 助教授 升任 10.11.1 電子
宋 文杰 助教授 採用 10.12.1 電子
伊藤利道 教 授 升任 11.3.1 電子
児玉裕治 教 授 辞職 11.3.31 通信

- (オハイオ州立大学教授)
綿森道夫 助 手 辞職 11.3.31 電子
(高知工科大学助教授)
吉村政志 助 手 採用 11.4.1 電子
松田崇弘 助 手 採用 11.4.1 通信
北山研一 教 授 採用 11.4.1 電子情報

▼母校の教壇に立つ本会会員（平成10年度）

- ・電気工学専攻「電気工学特別講義」
川崎電設（株）企画部長兼技術部長
土井 克彦（電気・昭42）
- ・電気工学専攻「離散事象システム論」
川崎重工業（株）電子・制御技術開発センター グループ長
長尾 陽一（電子・昭47）
- ・電気工学科「特別講義」
関西電力（株）原子力・火力本部取締役
山崎 吉秀（電気・昭33）
- ・電気工学科「照明工学」
元松下電子工業（株）照明事業部照明開発センター 取締役所長
坪 坏 秀三（電気・昭35）
- ・電気工学科「半導体工学」
三菱電機（株）映像事業本部常務取締役副事業本部長
中野 隆生（電気・昭37）
- ・電気工学科「半導体工学」
高知工科大学教授
加納 剛太（電気・昭36）
- ・電気工学科「パワーエレクトロニクス」
三菱電機（株）産業システム研究所パワーエレクトロニクス開発部長
内田 良平（電子・昭42）
- ・通信工学専攻「通信工学特別講義」
日本電気（株）取締役支配人
林 宏美（通信・昭38）
- ・通信工学専攻「通信工学特別講義」
沖電線（株）代表取締役社長
西澤 定律（通信・昭33）
- ・通信工学専攻「通信工学特別講義」
日本電信電話（株）光ネットワークシステム研究所研究企画部長
松本 隆男（通信・昭47）
- ・通信工学専攻「通信工学特別講義」
三菱電機（株）電子情報システム事業部監視・管

制システム営業部長

中村 雅澄（通信・昭42）

- ・通信工学専攻「通信工学特別講義」

（株）日立製作所情報メディア事業本部企画センター長

岸本 清治（通信・昭47）

- ・通信工学専攻「通信工学特別講義」

（株）富士通研究所パーソナルシステム研究所所長代理

森田 修三（電子・昭43）

- ・通信工学専攻「情報ネットワーク論」
神戸商船大学商船学部情報システム工学講座助教授

井上 健（通信・昭52）

- ・通信工学科「特別講義」
住友電気工業（株）取締役支配人

吉田 健一（通信・昭39）

- ・通信工学科「特別講義」
松下電器産業（株）九州マルチメディアシステム研究所所長

坂尾 隆（通信・昭43）

- ・通信工学科「特別講義」
シャープ（株）通信システム事業本部通信システム開発研究所所長

千葉 徹（電子・昭47）

- ・通信工学科「音響工学」
関西大学工学部電子工学科教授

野村 康雄（通信・昭36）

- ・通信工学科「情報電気系実験第2部」
日本電信電話（株）NTT関西支社設備企画部調査課課長

米田 秀弥（通信・昭62）

- ・電子工学専攻「電子工学特別講義」
三菱電機（株）産業システム研究所所長室主管技師長

鷲野 翔一（電子・昭43）

- ・電子工学専攻「電子工学特別講義」
日本放送協会放送技術研究所研究主幹

- 森下 洋治（電子・昭39）
・電子工学専攻「電子工学特別講義」
住友電気工業（株）取締役支配人
- 吉田 健一（通信・昭39）
・電子工学専攻「電子工学特別講義」
松下電子工業（株）技術開発推進本部電子総合研究所所長
- 加納 剛太（電気・昭36）
・電子工学専攻「電子工学特別講義」【由賀賞受】
- N T T 関西移動通信網（株）取締役営業企画部長
西邑 省三（電子・昭45）
- ・電子工学専攻「電子工学特別講義」
（株）日立製作所中央研究所先端技術研究部主任
研究員 田内 新一（電子D・昭54）
- ・電子工学専攻「集積光学特論」賞受
N T T 基礎研究所研究企画部部長
向井 孝彰（電子・昭50）【由賀賞受】
- ・電子工学科「特別講義」
シャープ（株）副社長デバイス事業統括学実験
三坂 重雄（電子・昭38）
- ・電子工学科「特別講義」
（株）日立製作所国際電機営業本部本部長
村木 隆（電機・昭39）
- ・電子工学科「集積回路工学」
三菱電機（株）3 D グラフィックスプロジェクト
マネージャー
藤島 一康（電気・昭48）
- ・情報システム工学専攻「情報システム工学特別講義」
N T T データ通信（株）人材開発部長
菅村 記 昇（電気・昭49）
- ・情報システム工学専攻「情報システム工学特別講義」
三菱電機（株）産業システム研究所所長室主管技
師長 久一（電子・昭43）
鷲野 翔一（電子・昭43）
・情報システム工学専攻「計算機援用設計論」
高忠雄先生（大阪大学名誉教授、奈良先端科学技
術研究センター）
- シャープ（株）生産技術開発推進本部精密技術開
発センター技師長
神戸 尚志（電子・昭51）
- ・情報システム工学専攻「集積システム工学」
日本電気（株）材料部品分析評価センター長
辻出 浩徹（電子・昭51）
- ・情報システム工学科「特別講義」
日本電信電話（株）理事光ネットワークシステム
研究所長
- 山下 一郎（電子・昭44）
- ・情報システム工学科「システムプログラム」
岡山大学総合情報処理センター助教授
山井 成良（電子・昭59）
- ・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特別
講義」
KDD高速ネットワーク事業開発グループ担当部
長
安川 交二（通信・昭45）
- ・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特別
講義」
関西電力（株）情報通信部長
土森 紀之（電気・昭41）
- ・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特別
講義」
住友電気工業（株）経営企画部
松本 和久（電子・昭46）
- ・情報システム工学専攻「情報システム工学特別講
義」
会員長として御礼申し上げます。（文書学
会委員長として御礼申し上げます。）

会員の方々のご活躍

叙 勲

次の2名の先生方が平成10年度の叙勲をお受けになられました。数々のご業績と教育・研究におけるご貢献が高く評価されたものと誠に慶賀に存じ、心よりお祝い申し上げます。

小山次郎元電子工学科教授

勳三等瑞宝章受賞

(平成10年4月29日)

中村勝吾名誉教授（通信・昭25）

勳三等旭日中綬賞受賞

(平成10年11月10日)

受 賞（学会賞等）

以下の方々が、次の各賞を受賞されました。

森永規彦教授（通信・M昭40、D43：通信工学専攻）

通商産業大臣表彰

平成10年度情報化促進貢献個人表彰

平成10年10月1日

【受賞理由】ワイヤレスマルチメディア通信の普及・発展並びに近畿地域の情報化に対する貢献

吉野勝美教授（電気・昭39、M41、D47：電子工学専攻）

電気学会「業績賞」

平成10年5月21日

【受賞理由】有機電気電子材料に関する学術・技術の発展への貢献

大川剛直助教授（通信・昭61、M63：情報システム工学専攻）、湯本真樹助手（情報・平7、M9：同）

電気学会「進歩賞」

平成10年5月21日

【受賞理由】確率的定性推論による空調設備診断方式の開発

山中龍彦教授（電気・昭38、M40：レーザー核融合研究センター）、河崎善一郎助教授（通信・昭40、M50、D53：電気工学専攻）、内田成明氏（電気・昭58：(財)レーザー技術総合研究所）

電気学会「進歩賞」

平成10年5月21日

【受賞理由】世界で初めてレーザー誘雷の実証に成功

薦田憲久教授（電気・昭47、M49：情報システム工学専攻）、大川剛直助教授（通信・昭61、M63：同）、一階良知助手（情報・平5、M7：同）

電気学会「論文賞」

平成10年5月21日

【受賞論文】動的遺伝操作切替を用いた遺伝的アルゴリズムによるプロジェクトスケジューリング

西原功修教授（レーザー核融合研究センター）、第6回プラズマ数値シミュレーション国際会議「オスカー賞」

平成10年2月12日

【受賞理由】プラズマ数値シミュレーション研究における最優秀ビジュアリゼーション

内田成明氏（電気・昭58：(財)レーザー技術総合研究所）、山中千代衛名誉教授（電気・昭23：同所長）、山中龍彦教授（電気・昭38、M40：レーザー

核融合研究センター)、河崎善一郎助教授(通信・昭48、M50、D53:電気工学専攻)

レーザー学会「進歩賞」

平成10年5月29日

【受賞理由】レーザー誘雷の開発研究

阪部周二助教授(電気・昭53、M55:電子情報エネルギー工学専攻)

レーザー学会「論文賞」(解説部門)

平成10年5月29日

【受賞論文】テーブルトップ超短パルス超高強度レーザー

中井光男助手(電気・昭55、M57、D60:レーザー核融合研究センター)、白神宏之助手(電気・昭54、M56、D59:同)

レーザー学会「奨励賞」

平成10年6月4日

【受賞理由】レーザープラズマ発生X線を用いた時間分解X線ラジオグラフィーとその流体力学実験への応用

大平 孝氏(通信・昭53、M55、D58:NTTワイヤレス研究所)

アジア-太平洋マイクロ波1998年国際会議「Japan Microwave Prize」

平成10年12月10日

【受賞論文】“A GaAs Monolithic Intermodulation Controller for Active Phased Arrays”

熊谷信昭元総長・名誉教授(通信・昭28旧)

「高柳記念賞」

平成11年1月20日

【受賞理由】電磁界理論及び光通信技術等に関する研究

高 忠雄 名誉教授 シャノン賞受賞決定

高忠雄先生(大阪大学名誉教授、奈良先端科学技

術大学院大学名誉教授、広島市立大学教授)は、IEEEの1998年情報理論国際シンポジウムにおいて、シャノン賞(1999 Claude E. Shannon Award)を受賞されることが決定致しました。

シャノン賞は情報理論の創始者であるシャノンの業績を称えて、IEEEの情報理論ソサイエティが1973年に創設したもので、同ソサイエティ最高の賞であります。各年の受賞者は高々1名で、先生は21人目の受賞者です。これまでの受賞者はほとんどが米国人で、アジアからは初めての受賞となります。

先生の永年にわたる符号理論と形式言語理論における研究が、情報理論に関する長期間一貫した深い貢献であると高く評価されたものであります。なお、先生は1975年にIEEEフェローに選ばれ、1987年には電子情報通信学会業績賞を受賞しておられます。今回のシャノン賞受賞はまさに多年の研究・教育活動の集大成と言えるもので、誠に慶賀に存じます。

受賞決定記念講演会が昨年12月1日に大阪大学コンベンションセンターで開催されました。講演会には湯電会、IEEE東京セクション、電子情報通信学会、情報理論とその応用学会の協賛をいただきました。当日は先生ゆかりの方々(大阪大学、奈良先端科学技術大学院大学、広島市立大学の教職員だけでなく、同窓生のご友人、教え子、研究上のお仲間、関連企業の技術者、マスコミ・報道関係など約400人)を前に、先生から「冗長の利用技術」と題するご講演をいただきました。引き続いて、千里阪急ホテルにおいて開催された祝賀会では、先生の恩師であられる本学名誉教授尾崎弘先生からお祝いのお言葉をいただきました。この紙面をお借りしまして改めて、ご支援、ご協力いただいた方々に、実行委員会委員長として御礼申し上げます。

(本学基礎工学研究科 菊野亨教授 記)

会員各位のご活躍につきまして、記載もれがございましたら、何卒ご容赦下さい。なお、受賞等本欄に掲載すべき慶事がございましたら、隨時湯電会事務局までご連絡いただければ幸甚です。

澁電会 会則

会 則

第1条 本会は澁電会と称する。

第2条 本会は事務所を大阪大学工学部電気系内に置く。

第3条 本会は会員の親睦を図り、学術の発展および科学技術に関する知識の啓発に寄与することを目的とし、そのため適宜必要な事業を行う。

第4条 本会の会員はつきのとおりとする。

(1) 正会員

イ. 大阪大学工学部および工学研究科ならびにその前身である学校の電気系卒業生。

ロ. 大阪大学工学部および工学研究科の電気系現教官。

ハ. 大阪大学工学部電気系教官主査のもとで学位を得た者で、本会に入会を希望する者。

ニ. 特に本会に縁故があり、役員会の承認を得た者。

(2) 特別会員

正会員以外で大阪大学工学部電気系の教授、助教授および講師であった者ならびに特にこの会に縁故のある者。

(3) 学生会員

大阪大学工学部および工学研究科の電気系学生。

(4) 賛助会員

本会の活動を援助する法人または個人。

第5条 本会に次の役員、委員を置く。

会長 1名

副会長、幹事、クラス委員

第6条 会長は総会の議を経て選出する。副会長、幹事については会長が指名し、総会で承認を得る。クラス委員については学科別卒業年度別に選出する。

第7条 会長は本会の会務を総括し、本会を代表する。副会長は会長を補佐する。

第8条 会長、副会長、幹事は役員会を組織し、会務を処理する。クラス委員はクラスを代表し、本会に関する重要事項の相談にあずかる。

第9条 役員会の推薦により、本会に顧問を置くことができる。

第10条 役員の任期は2年とする。ただし重任はさまたげない。

第11条 定例総会は年1回開催する。臨時総会は必要に応じて開催する。定例総会では事業報告、会計報告および役員改選その他の議事を行う。

第12条 本会の事業年度、会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第13条 正会員は別に定めた規定により、会費を毎年7月末日までに納入しなければならない。

第14条 本会は必要に応じて支部を置くことができる。

第15条 本会則の変更は総会の議決を経て行う。

細 則

・会費は年額4,000円とする。

(平成7年度より実施)

・満70歳以上の会員は、会費の納入を要しない。

(平成3年度より実施)

編集後記

経済的な閉塞状態からなかなか抜け出せない状況が続いているが、それでも、漸く景気が底をうつた、あるいは平成11年中には底をうつとの声も聞こえてきております。毎年必ず成長すると言う、右肩上がり経済で象徴される高度経済成長時代の終焉とともに、確実に新たなパラダイムが必要となっている我国の現状が様々な機会に唱えられております。我大阪大学では、工学部全体の大学院重点化も漸く平成10年度に完了し、大学院工学研究科として平成11年度は2年目（我電気系教室は4年目）を迎えており、例えば「母校のニュース」欄にその一端を掲載しておりますように、教育や研究の一層の充実を目指し種々の取り組みが行われております。

人の住む社会を精神的・経済的に豊かにする上でどのような新たなパラダイムも人の繋がりを抜きには考えられないと思われ、我同窓会組織「濱電会」の重要性もまた強調されるべきでしょう。特に、相対的に若い年令層の「濱電会」への所属意識が希薄になっていると危惧されるため、本会報をより魅力あるものにし、少しでも本会の発展に寄与しなければならないと痛切に感じております。その取り組みの一つとして

本号では、「濱電会会則」を裏表紙に掲載致しました。原稿を依頼した際「濱電会」には入会した覚えがないとの声も聞かれましたので、改めて会員の皆様方に本会を再認識して頂きたいとの願いからです。また、紙面の余白を利用して、「総会・懇親会」や「卒業祝賀・謝恩会」のスナップ写真を入れてみました。本会を少しおりとも身近に感じて頂く助けになりましたでしょうか。なお、郵送料を抑制するため薄い紙を用いておりますので、裏側の文章が多少読み辛くなっている場合にはご了承下さい。更に、濱電会独自のホームページを作成し、情報通信技術の著しい進展の恩恵を享受する方策も検討しようとしております。本会報に関して、会員の皆様方のご要望や積極的なご意見をお待ちしておりますので、下段に記載の事務局まで、ご送付頂ければ幸いです。

最後になりましたが、御多忙中にも拘らず、多くの方々に御寄稿頂きました。この場を借り改めて厚く御礼申し上げます。また、記載事項に誤植等が残ってしまっていることもあるかも知れませんが、その際には何卒ご容赦下さい。

（編集担当幹事：伊藤利道、栖原敏明）

発行 濱電会

〒565-0871 吹田市山田丘2-1

大阪大学大学院工学研究科電気系内

電話：06-6879-7789（ダイヤルイン）

ファックス：06-6879-7774

電子メール：reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp